

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年4月18日
【計算期間】	第2特定期間（自 平成25年7月19日 至 平成26年1月20日）
【ファンド名】	朝日ライフ・MSCI・グローイング・アセアン株式ファンド
【発行者名】	朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 伊藤 健五
【本店の所在の場所】	東京都杉並区和泉一丁目22番19号
【事務連絡者氏名】	宮崎 恭介
【連絡場所】	本店の所在の場所に同じ
【電話番号】	03-3323-6201
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

## 第一部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

MSCI東南アジアGDPアロケーション指数(円換算ベース)の中長期的な動きに概ね連動する投資成果を目指して、運用を行います。

商品分類・属性区分

一般社団法人投資信託協会による商品分類・属性区分は次のとおりです。

##### ・商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）	補足分類
単位型投信	国内	株式 債券	インデックス型
	海外	不動産投信 その他資産 ( )	
追加型投信	内外	資産複合	特殊型

##### ・属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ	対象インデックス
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル			日経225
	年2回	日本	ファミリーファンド		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年4回	北米		あり ( )	TOPIX
	年6回 (隔月)	欧州	ファンド・オブ・ファンズ	なし	
不動産投信	年12回 (毎月)	アジア			その他 (MSCI東南アジアGDP アロケーション指数 (円換算ベース))
その他資産 (投資信託証券(株式 一般))	日々	オセアニア 中南米 アフリカ			
資産複合 資産配分固定型 資産配分変動型	その他 ( )	中近東 (中東) エマージング			

##### <各分類および区分の定義>

###### 商品分類

単位型・追加型	追加型投信	一度設定されたファンドであっても、その後追加設定が行われ、従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	海外	目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産	株式	目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
補足分類	インデックス型	目論見書または信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいいます。

###### 属性区分

投資対象資産	その他資産 (投資信託証券(株式 一般))	目論見書または信託約款において、主として株式一般(大型株、中小型株属性にあてはまらないもの)に投資する投資信託証券に投資する旨の記載があるものをいいます。
--------	--------------------------	-------------------------------------------------------------------------------

決算頻度	年4回	目論見書または信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいいます。
投資対象地域	アジア	目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益がアジアの資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資形態	ファミリー ファンド	目論見書または信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するものをいいます。 マザーファンドということがあります。
為替ヘッジ	なし	目論見書または信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものをいいます。
対象 インデックス	その他 (MSCI東南アジア GDPアロケーション 指数(円換算 ベース))	目論見書または信託約款において、MSCI東南アジアGDPアロケーション指数(円換算ベース)の動きに連動する投資成果を目指す旨の記載があるものをいいます。

(注1) 上記は、一般社団法人投資信託協会「商品分類に関する指針」に基づき記載しています。当ファンドが該当する商品分類・属性区分を反転表示しています。

(注2) 属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しています。

(注3) その他の商品分類・属性区分の詳細については、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<http://www.toushin.or.jp/>)をご覧ください。

#### 信託金の限度額

3,000億円とします。

なお、委託会社は受託会社と合意のうえ、限度額を変更することができます。

#### ファンドの特色

##### 1. 東南アジア諸国の株式に投資し、MSCI東南アジアGDPアロケーション指数(円換算ベース)の中長期的な動きに概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。

運用の効率性および流動性確保の観点から、対象指数構成国の株式市場の動きとの連動を目指す上場投資信託証券に投資する場合があります。

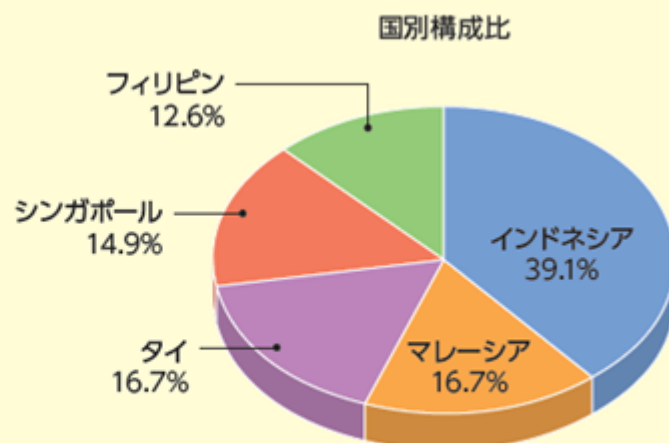
##### 2. MSCI東南アジアGDPアロケーション指数(円換算ベース)

MSCI東南アジアGDPアロケーション指数とは、MSCI Inc.が算出する株価指数で、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ(2014年2月末現在)の株価指数を各国の名目GDPをベースに合成したものです。

円換算ベースとは、米ドルベースの指数をもとに、委託会社が円換算したものです。

#### ● 指数の概要 (2014年2月末現在)

構成国		インドネシア
		マレーシア
		フィリピン
		シンガポール
		タイ
構成銘柄数	151銘柄	



(出所)MSCI Inc.のデータをもとに朝日ライフ アセットマネジメント作成  
※数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

### 3. 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

当ファンドは、MSCI Inc.(以下、「MSCI」といいます。)、MSCIの関連会社およびMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者(以下、総称して「MSCI関係者」といいます。 )が、保証、推奨、販売または宣伝するものではありません。MSCI指数はMSCIが独占的に所有しています。MSCIおよびMSCI指数は、MSCIおよびその関連会社のサービスマークであり、朝日ライフ アセットマネジメント株式会社(以下、「委託会社」といいます。 )は特定の目的のためにその使用を許諾されています。MSCI関係者は、当ファンドの委託会社、受益者その他の者に対して、ファンド全般またはこの特定のファンドへの投資に関する当否あるいは一般的な株式市場のパフォーマンスをトラックしているMSCI指数の能力に関して、明示的であると黙示的であるとを問わず、一切の表明または保証を行いません。MSCIおよびその関連会社は、特定のトレードマーク、サービスマーク、トレードネームのライセンスの所有者であり、MSCI指数は、当ファンドまたは当ファンドの委託会社、受益者その他の者にかかわらず、MSCIにより決定、作成、計算されています。MSCI関係者は、MSCI指数の決定、作成あるいは計算において、当ファンドの委託会社、受益者その他の者の要求を考慮にいれる義務は一切ありません。MSCI関係者は、当ファンドの発行時期、発行価格または発行数量の決定について、また、当ファンドを換金するための計算式の決定または計算について責任を負うものではなく、参加もしていません。また、MSCI関係者は、当ファンドの委託会社、受益者その他の者に対し、当ファンドの管理、マーケティングまたは募集に関連するいかなる義務または責任も負いません。

MSCIは、自らが信頼できると考える情報源からMSCI指数の計算に算入される情報またはその計算に使用するための情報を入手しますが、MSCI関係者は、MSCI指数またはそれに含まれるいかなるデータの独創性、正確性および/または完全性について保証するものではありません。MSCI関係者は、明示的にも黙示的にも、当ファンドの委託会社、受益者その他の者が、MSCI指数またはそれに含まれるデータを使用することにより得られる結果について、保証を行いません。MSCI関係者は、MSCI指数およびそれに含まれるデータのまたはそれに関連する過誤、省略または中断に対してまたはそれらに関して責任を負いません。また、MSCI関係者は、MSCI指数およびそれに含まれるデータに関し、明示的、黙示的な保証を行うものでもなく、かつMSCI関係者は、特定目的のための市場性および適切性について、何ら保証しないことを明記します。前記事項を制限することなく、たとえ直接的損害、間接的損害、特別損害、懲罰的損害、拡大的損害その他のあらゆる損害(逸失利益を含みます。 )につき、その可能性について知らせを受けていたとしても、MSCI関係者は、いかなる場合においてもかかる損害について責任を負いません。

当ファンドの購入者、販売者、受益者その他の者は、MSCIの許諾が必要かどうかの決定をあらかじめMSCIに問い合わせることなく、当ファンドを保証、推奨、売買または宣伝するためにいかなるMSCIのトレードネーム、トレードマークまたはサービスマークを使用または言及することはできません。いかなる場合においても、何人も事前にMSCIの書面による許諾を得ることなくMSCIとの関係を一切主張することはできません。

#### (2) 【ファンドの沿革】

平成25年3月27日 信託契約締結、ファンドの設定・運用開始

#### (3) 【ファンドの仕組み】

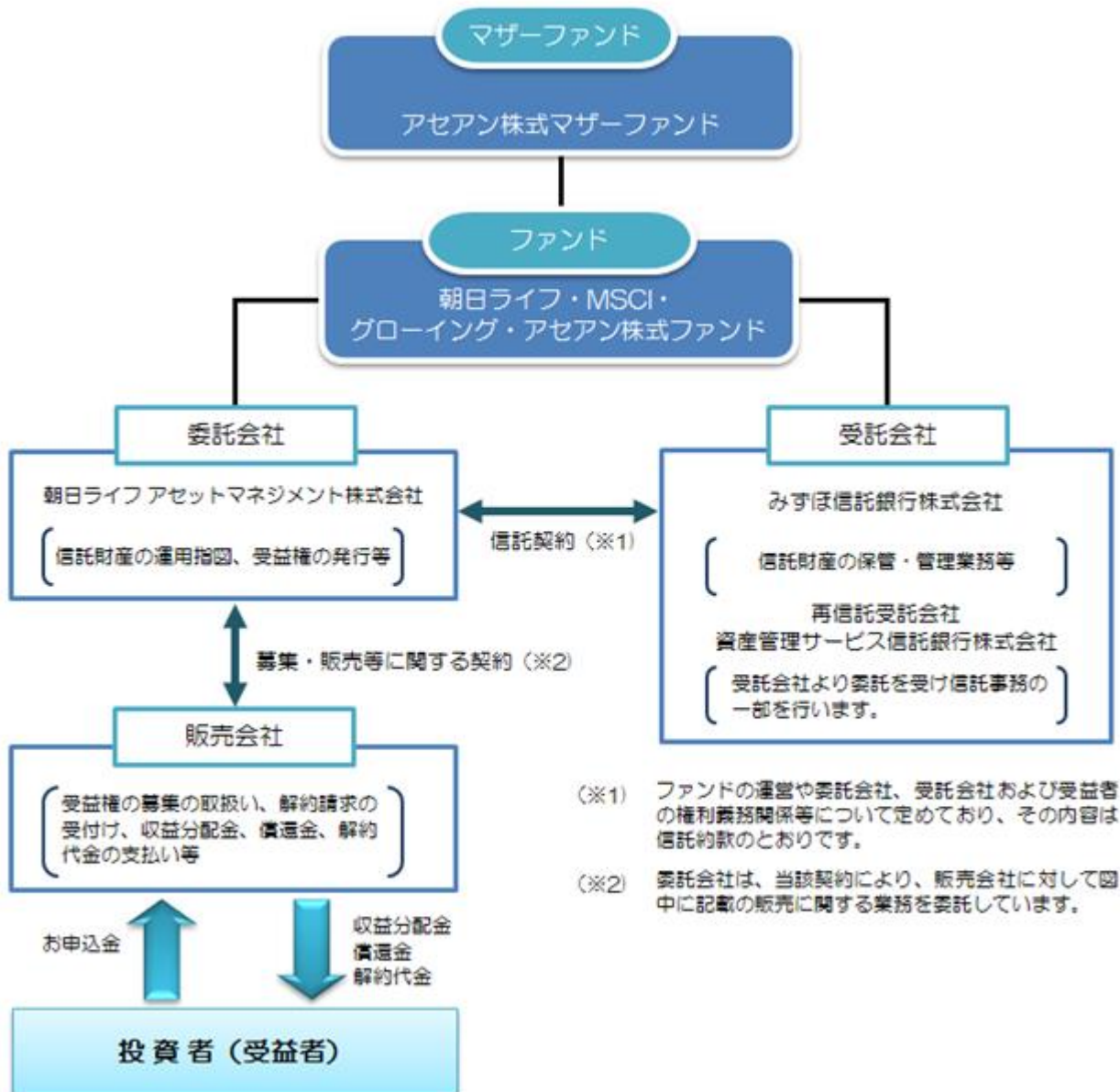
当ファンドの運用は、ファミリーファンド方式で行います。

ファミリーファンド方式とは、投資者から集めた資金をベビーファンドとしてまとめ、その資金を主としてマザーファンドに投資することにより、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

マザーファンドの投資成果はベビーファンドに反映されます。



ファンドの仕組み及び関係法人



### 委託会社の概況

- 1) 資本金の額(平成26年2月末現在)  
30億円
- 2) 会社の沿革  
昭和60年7月 朝日生命投資顧問株式会社設立  
平成11年4月 朝日ライフ アセットマネジメント株式会社に商号変更
- 3) 大株主の状況(平成26年2月末現在)

名称	住所	所有株式数	比率
朝日生命保険相互会社	東京都千代田区大手町2-6-1	32,000株	100.0%

## 2【投資方針】

### (1)【投資方針】

#### 投資対象

アセアン株式マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資する場合があります。

#### 投資態度



- 1) マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、東南アジア諸国の株式に投資し、MSCI東南アジア GDPアロケーション指数(円換算ベース)の中長期的な動きに概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。
- 2) 運用の効率性および流動性確保の観点から、対象指数構成国の株式市場の動きとの連動を目指す上場投資信託証券に投資する場合があります。
- 3) マザーファンド受益証券および上場投資信託証券の組入比率の合計は、原則として高位を維持します。
- 4) 運用の効率化を図るため、株価指数先物取引等を利用する場合があります。このため、株式等の組入総額と株価指数先物取引等の買建玉の時価総額の合計額(マザーファンドの信託財産に属する当該資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額を含みます。)が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。
- 5) 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- 6) 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合や、ファンドの投資目的が達成されない場合があります。

## (2)【投資対象】

当ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- 1) 次に掲げる特定資産(投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項に掲げるものをいいます。以下同じ。)
  - a. 有価証券
  - b. デリバティブ取引にかかる権利(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款第20条、第21条および第22条に定めるものに限りません。)
  - c. 約束手形
  - d. 金銭債権
- 2) 次に掲げる特定資産以外の資産
  - a. 為替手形

委託会社は、信託金を、主としてアセアン株式マザーファンドの受益証券および次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。

- 1) 株券または新株引受権証書
- 2) 国債証券
- 3) 地方債証券
- 4) 特別の法律により法人の発行する債券
- 5) 社債券(新株引受権証券と社債券が一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。))の新株引受権証券を除きます。)
- 6) 特定目的会社にかかる特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
- 7) 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
- 8) 協同組織金融機関にかかる優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
- 9) 特定目的会社にかかる優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
- 10) コマーシャル・ペーパー
- 11) 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。))および新株予約権証券
- 12) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
- 13) 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
- 14) 投資証券もしくは投資法人債券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
- 15) 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
- 16) オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限りません。)

- 17) 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
- 18) 外国法人が発行する譲渡性預金証書
- 19) 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)
- 20) 抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)
- 21) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

22) 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

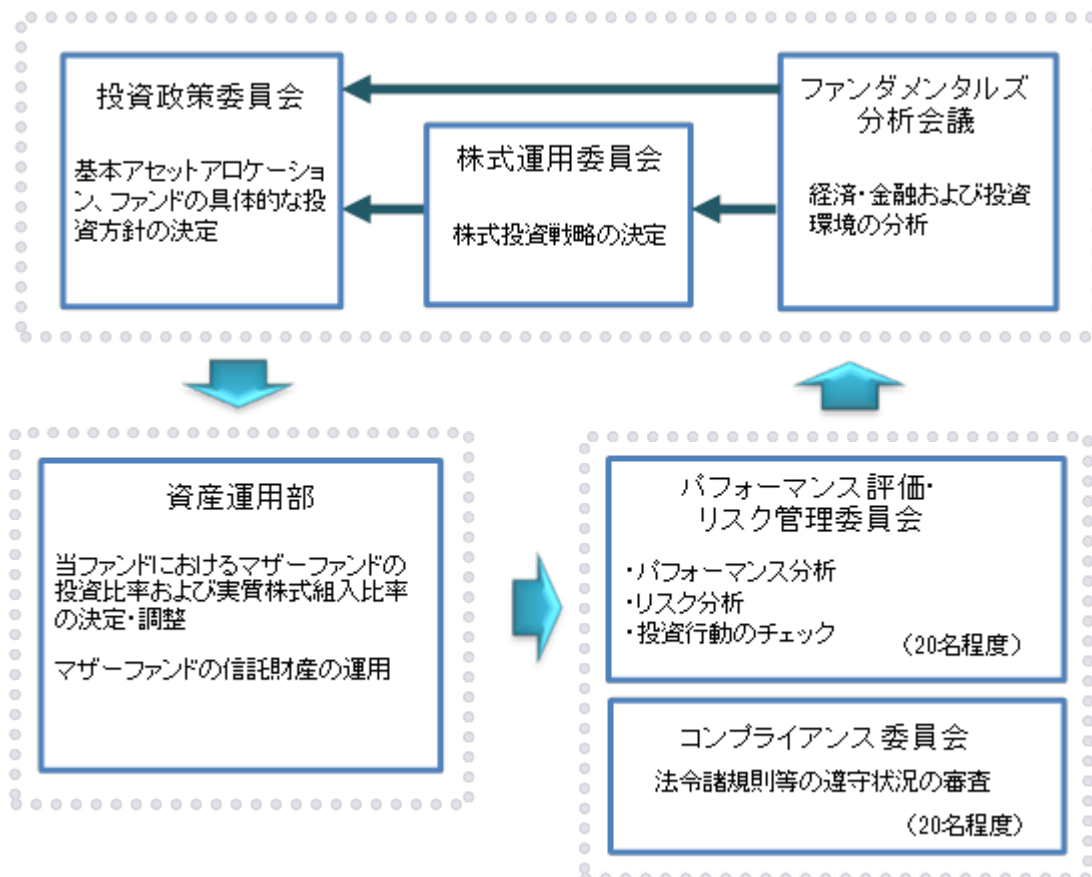
なお、1)の証券または証書、12)および17)の証券または証書のうち1)の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2)から6)までの証券ならびに12)および17)の証券または証書のうち2)から6)までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13)および14)の証券を以下「投資信託証券」といいます。

委託会社は、信託金を、上記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。

- 1) 預金
- 2) 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
- 3) コール・ローン
- 4) 手形割引市場において売買される手形
- 5) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
- 6) 外国の者に対する権利で上記5)の権利の性質を有するもの

上記 の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は信託金を上記 の1)から6)までの金融商品により運用することを指図することができます。

### (3) 【運用体制】



ファンドの運用に際しては、社内規程等において以下に述べる意思決定プロセスにかかる組織体および権限、責任等を定め、これに基づき業務を執行します。

また、業務執行の適切性については、適宜、内部監査部門による評価等によりその実効性を確保しています。

以下のプロセスで運用に関する意思決定を行います。

1) ファundamentalズ分析会議でエコノミスト、アナリストおよびファンドマネジャー等による投資環境分析を行い、これを踏まえて株式運用委員会を開催し、株式および各プロダクトの投資戦略を決定します。

2) 投資政策委員会では、基本アセットアロケーション、ファンドの具体的な投資方針を決定します。

資産運用部において、ファンドの具体的な投資方針に基づく運用を行います。

1) 当ファンドにおけるマザーファンドの投資比率および実質株式組入比率の決定・調整を行います。

2) マザーファンドの信託財産の運用を行います。また、当ファンドで株式等に直接投資する場合、その運用を行います。

パフォーマンス評価・リスク管理委員会(20名程度)でパフォーマンス分析およびリスク分析、コンプライアンス委員会(20名程度)で法令遵守状況の審査を行い、これらを運用の意思決定プロセスにフィードバックします。なお、パフォーマンス評価・リスク管理委員会およびコンプライアンス委員会は常勤役員等により構成され、経営の立場から適切に管理・監督を行います。

受託会社等のファンドの関係法人(販売会社を除く)の管理については、日々の業務を通じ、業務執行能力、管理体制および知識・経験等をモニタリングしています。また、受託会社より内部統制に関する報告書を定期的に受領しています。

(注) 委員会および部の名称等は変更される場合があります。

#### (4) 【分配方針】

毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

1) 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益(マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額(以下「みなし配当等収益」といいます。))を含みます。)および売買益(評価益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額)等の全額とします。

2) 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないこともあります。

3) 収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき運用を行います。

分配時期

決算日は、毎年1・4・7・10月の各18日(休業日の場合は翌営業日)です。

収益分配金の支払いについては、以下のとおりです。

1) 分配金受取コース

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込金額支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。)に、原則として決算日から起算して5営業日までに支払いを開始します。

2) 自動けいぞく投資コース

収益分配金は、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に、税金を差し引いた後、無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は振替口座簿に記載または記録されます。

(注) 将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

#### (5) 【投資制限】

信託約款に定める投資制限

1) 株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への実質投資割合には、制限を設けません。<信託約款「運用の基本方針」2.(3)>

2) 委託会社は、信託財産に属する投資信託証券(マザーファンド受益証券および上場投資信託証券を除きます。)の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する投資信託証券(上場投資信託証券を除きます。)の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図を行いません。<信託約款第15条第4項>



上記において、信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。〈同条第5項〉

- 3) 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商品取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。なお、金融商品取引所を単に「取引所」という場合があり、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行う市場および当該市場を開設するものを「証券取引所」という場合があります。)に上場されている株式の発行会社の発行するもの、金融商品取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式については、この限りではありません。〈信託約款第18条第1項〉

上記の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託会社が投資することを指図することができるものとします。〈同条第2項〉

- 4) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図を行うことができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。〈信託約款第19条第1項〉

上記の信用取引の指図は、当該売付けにかかる建玉の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該売付けにかかる建玉の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の範囲内とします。信託財産の一部解約等の事由により、売付けにかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は、速やかにその超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。〈同条第2項、第4項〉

上記において、信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該売付けにかかる建玉の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。〈同条第3項〉

委託会社は、信託財産で保有する有価証券を信用取引の委託保証金の代用として差入れることの指図をすることができるものとします。〈同条第5項〉

- 5) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。))および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。)、ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引(以下「有価証券先物取引等」といいます。)を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします(以下同じ。)。〈信託約款第20条第1項〉

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引、ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。〈同条第2項〉

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引、ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。〈同条第3項〉

- 6) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。〈信託約款第21条第1項〉

スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。〈同条第2項〉

スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。〈同条第3項〉

委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。〈同条第4項〉

- 7) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。〈信託約款第22条第1項〉

金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。〈同条第2項〉

金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。〈同条第3項〉

委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。〈同条第4項〉

- 8) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債につき、次の範囲内で貸付けの指図を行うことができます。〈信託約款第23条第1項〉

1 株式の貸付けは、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。

2 公社債の貸付けは、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。

上記に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。〈同条第2項〉

委託会社は、有価証券の貸付けを行うにあたり必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。〈同条第3項〉

- 9) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産の計算においてする信託財産に属さない公社債を売付けることの指図を行うことができます。なお、当該売付けの決済については、公社債(信託財産により借入れた公社債を含みます。)の引渡または買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。〈信託約款第24条第1項〉

上記の売付けの指図は、当該売付けにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。〈同条第2項〉

信託財産の一部解約等の事由により、上記の売付けにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は、速やかにその超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図を行うものとします。〈同条第3項〉

- 10) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図を行うことができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。借入れにかかる品借料は信託財産中から支弁します。〈信託約款第25条第1項、第4項〉

上記の指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。〈同条第2項〉

信託財産の一部解約等の事由により、上記の借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は、速やかにその超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図を行うものとします。〈同条第3項〉

- 11) 外貨建資産(外貨建有価証券(外国通貨表示の有価証券をいいます。)、預金その他資産をいいます。以下同じ。)への実質投資割合には、制限を設けません。ただし、外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。〈信託約款第26条〉

- 12) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに為替変動リスクを回避するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。〈信託約款第27条第1項〉

上記の予約取引の範囲は、信託財産にかかる為替の買予約の合計額とマザーファンドの信託財産にかかる為替の買予約の合計額のうち信託財産に属するとみなした額との総合計額と、信託財産にかかる為替の売予約の合計額とマザーファンドの信託財産にかかる為替の売予約の合計額のうち信託財産に属するとみなした額

との総合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産の額とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額との合計額の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内にその超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。〈同条第2項、第4項〉

上記において、マザーファンドの信託財産にかかる為替の買予約の合計額のうち信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産にかかる為替の買予約の合計額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。また、マザーファンドの信託財産にかかる為替の売予約の合計額のうち信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産にかかる為替の売予約の合計額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。〈同条第3項〉

13) 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。〈信託約款第33条第1項〉

上記の資金借入額は、次に掲げる要件を満たす範囲内の額とします。〈同条第2項〉

- 1 一部解約に伴う支払資金の手当てにあたっては、一部解約金の支払資金の手当てのために行った有価証券等の売却または解約等ならびに有価証券等の償還による受取りの確定している資金の額の範囲内
- 2 再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てにあたっては、収益分配金の再投資額の範囲内
- 3 借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%以内

一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間、または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間、もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とします。〈同条第3項〉

再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てのための借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとします。〈同条第4項〉

借入金の利息は、信託財産中から支弁します。〈同条第5項〉

#### 法令に基づく投資制限

##### 1) 同一の法人の発行する株式への投資制限(投資信託及び投資法人に関する法律)

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数が当該株式にかかる議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって取得することを受託会社に指図しないものとします。

##### 2) デリバティブ取引にかかる投資制限(金融商品取引業等に関する内閣府令)

委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引(新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引及び選択権付債券売買を含みます。)を行い、または継続することを指図しないものとします。

#### <参考> マザーファンドの概要

##### アセアン株式マザーファンド

以下「(3)投資制限」までにおいて、「ファンド」、「信託財産」および「信託期間」とは、マザーファンドのそれらをいいます。

##### (1) 投資方針

##### 投資対象

東南アジア諸国の株式を主要投資対象とします。

#### 投資態度

- 1) 主として、東南アジア諸国の株式に投資し、MSCI東南アジアGDPアロケーション指数(円換算ベース)の中長期的な動きに概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。
- 2) 運用の効率性および流動性確保の観点から、対象指数構成国の株式市場の動きとの連動を目指す上場投資信託証券に投資する場合があります。
- 3) 株式および上場投資信託証券の組入比率の合計は、原則として高位を維持します。
- 4) 運用の効率化を図るため、株価指数先物取引等を利用する場合があります。このため、株式等の組入総額と株価指数先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。
- 5) 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- 6) 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合やファンドの投資目的が達成されない場合があります。

#### (2) 投資対象

当ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- 1) 次に掲げる特定資産
  - a. 有価証券
  - b. デリバティブ取引にかかる権利(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款第17条、第18条および第19条に定めるものに限ります。)
  - c. 約束手形
  - d. 金銭債権

#### 2) 次に掲げる特定資産以外の資産

- a. 為替手形

委託会社は、信託金を、主として次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。

- 1) 株券または新株引受権証券
- 2) 国債証券
- 3) 地方債証券
- 4) 特別の法律により法人の発行する債券
- 5) 社債券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。)
- 6) 特定目的会社にかかる特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
- 7) 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
- 8) 協同組織金融機関にかかる優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
- 9) 特定目的会社にかかる優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
- 10) コマーシャル・ペーパー
- 11) 新株引受権証券および新株予約権証券
- 12) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
- 13) 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
- 14) 投資証券もしくは投資法人債券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
- 15) 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
- 16) オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限ります。)
- 17) 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
- 18) 外国法人が発行する譲渡性預金証書
- 19) 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)

20) 抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)

21) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

22) 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

なお、1)の証券または証書、12)および17)の証券または証書のうち1)の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2)から6)までの証券ならびに12)および17)の証券または証書のうち2)から6)までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13)の証券および14)の証券を以下「投資信託証券」といいます。

委託会社は、信託金を、上記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。

1) 預金

2) 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)

3) コール・ローン

4) 手形割引市場において売買される手形

5) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの

6) 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

上記 の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金、を上記 の1)から6)までの金融商品により運用することを指図することができます。

### (3) 投資制限

株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への投資割合には、制限を設けません。 < 信託約款「運用の基本方針」2.(3) >

委託会社は、信託財産に属する投資信託証券(上場投資信託証券を除きます。)の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図を行いません。 < 信託約款第12条第4項 >

委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するもの、金融商品取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとし、ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。 < 信託約款第15条第1項 >

上記の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託会社が投資することを指図することができます。 < 同条第2項 >

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図を行うことができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができます。 < 信託約款第16条第1項 >

上記の信用取引の指図は、当該売付けにかかる建玉の時価総額が、信託財産の純資産総額の範囲内とします。 < 同条第2項 >

信託財産の一部解約等の事由により、上記の売付けにかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は、速やかにその超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとし、 < 同条第3項 >

委託会社は、信託財産で保有する有価証券を信用取引の委託保証金の代用として差入れることの指図をすることができます。 < 同条第4項 >

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、有価証券先物取引等を行うことの指図をすることができます。 < 信託約款第17条第1項 >

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引、ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。 < 同条第2項 >

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引、ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。〈同条第3項〉

委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、スワップ取引を行うことの指図をすることができます。〈信託約款第18条第1項〉

スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。〈同条第2項〉

スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。〈同条第3項〉

委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。〈同条第4項〉

委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。〈信託約款第19条第1項〉

金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

〈同条第2項〉

金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。〈同条第3項〉

委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。〈同条第4項〉

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債につき、次の範囲内で貸付けの指図を行うことができます。〈信託約款第20条第1項〉

1 株式の貸付けは、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。

2 公社債の貸付けは、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。

上記に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。〈同条第2項〉

委託会社は、有価証券の貸付けを行うにあたり必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。〈同条第3項〉

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産の計算においてする信託財産に属さない公社債を売付けの指図を行うことができます。なお、当該売付けの決済については、公社債(信託財産により借入れた公社債を含みます。)の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。〈信託約款第21条第1項〉

上記の売付けの指図は、当該売付けにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。〈同条第2項〉

信託財産の一部解約等の事由により、上記の売付けにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は、速やかにその超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図を行うものとします。〈同条第3項〉

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図を行うことができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。借入れにかかる品借料は信託財産中から支弁します。〈信託約款第22条第1項、第4項〉

上記の指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。〈同条第2項〉

信託財産の一部解約等の事由により、上記の借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は、速やかにその超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図を行うものとします。〈同条第3項〉



外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。ただし、外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。〈信託約款第23条〉

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに為替変動リスクを回避するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。〈信託約款第24条第1項〉

上記の予約取引の範囲は、信託財産にかかる為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。〈同条第2項〉

上記の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内にその超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。〈同条第3項〉

### 3【投資リスク】

リスクに関する留意点

- 1) ファンドは値動きのある有価証券等を投資対象としますので、組入有価証券等の値動きなどの影響により、基準価額が下落することがあります。したがって、投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、これを割り込むことがあります。ファンドは預貯金と異なります。  
信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 2) ファンドは金融機関の預金または保険契約ではありませんので、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた場合は、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- 3) ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 4) 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。  
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。  
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。

ファンドの主なリスク

当ファンドが有する主なリスクは以下のとおりです。

- 1) 株価変動リスク  
株式の価格(株価)が発行会社の経営・財務状況の変化、国内外の政治、経済、社会情勢の変化等の影響を受け下落するリスクをいいます。株式の実質組入比率は原則として高水準を維持しますので、株価が下落した場合には、ファンドの基準価額が下落する要因となります。ファンドが実質的に投資する企業が業績悪化や倒産等に陥った場合、その企業の株価は大きく下落し、ファンドの基準価額に大きな影響を及ぼすことがあります。
- 2) 為替変動リスク  
外国為替相場の変動により外貨建資産の価格が変動するリスクをいいます。一般に外国為替相場が対円で下落した場合(円高の場合)には、円ベースの資産価格は下落し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。  
当ファンドでは、外貨建資産について原則として為替ヘッジを行いませんので、為替相場の変動により、基準価額が大きく変動することがあります。
- 3) 信用リスク  
発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、債券等の利息や償還金をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなるリスク(債務不履行)をいいます。一般に債務不履行が生じた場合またはそれが予想される場合には、株式ならびに債券およびコマーシャル・ペーパー等の短期金融商品の価格は下落し(価格

がゼロになることもあります。)、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、発行体の格付変更に伴い価格が下落するリスクもあります。

#### 4) カントリーリスク

一般に、有価証券への投資は、その国の政治経済情勢、通貨規制、資本規制、税制等の要因によって影響を受けます。その結果、ファンドの投資対象有価証券の発行国の政治、経済、社会情勢等の変化により、金融市場が混乱し、資産価格が大きく変動することがあります。

#### 5) 価格乖離リスク

ファンドは、MSCI東南アジアGDPアロケーション指数(円換算ベース)の中長期的な動きに概ね連動する投資成果を目指して運用を行いますが、信託報酬や売買コストを負担すること、ファンドへの入出金、株式配当金の受取り、必ずしも指数構成銘柄をすべて組み入れるわけではないことや実質組入比率に差異が生ずること、制度や規制等によって運用に制約が生じることによる影響などから、ファンドの基準価額騰落率と指数の騰落率に乖離が生じることがあります

#### 6) 流動性リスク

有価証券を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がないために売却することができない、あるいは売り需要がないために購入することができない等のリスクをいいます。そのため保有有価証券の売却を行う場合、市況動向や流動性、あるいはファンドの解約金額によっては、保有有価証券を市場実勢より低い価格で売却しなければならないケースが生じる場合があり、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

#### 7) 金利変動リスク

金利水準の大きな変動は株式市場に影響を及ぼす場合があり、ファンドの基準価額の変動要因となります。

#### 8) ファミリーファンド方式に起因するリスク

マザーファンドへ投資する他のベビーファンドがある場合、当該ベビーファンドの設定・解約等によりマザーファンドに資金の流出が生じることがあります。その結果として、マザーファンドにおいて組入る有価証券の売買等が生じた場合には、ファンドの基準価額に影響を及ぼすことがあります。

#### 9) 繰上償還リスク

当ファンドは、受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合、受益者のため有利であると認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときなどには、繰上償還されることがあります。

#### 10) その他の留意点

証券市場および外国為替市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変等により閉鎖されることがあります。

#### リスク管理体制

ファンドのリスク管理は、社内規程やガイドライン等に基づき、運用部門のほか、管理部門およびコンプライアンス部門により行われています。また、リスク管理の状況は、委託会社の役員および各部門の代表者により構成されるリスク管理に関する委員会等において報告・検証され、必要に応じて改善される仕組みとなっています。

##### 1) パフォーマンス評価とリスク管理

- a. パフォーマンスおよびリスクの状況は、社内で一元的に管理しています。パフォーマンス評価およびリスク管理を行う上で分析の基礎となるデータは、各種のリスクモデル等によりデータベース化しています。
- b. 当ファンドのリスク分析とパフォーマンスの要因分析の結果は、役員、運用責任者を主要参加メンバーとするパフォーマンス評価・リスク管理委員会において報告され、運用計画と運用成果との整合性を検証することにより、当ファンドの品質の維持管理に努めています。
- c. 資産運用部へのフィードバックは、パフォーマンス評価・リスク管理委員会を通じて行っています。

##### 2) 運用にかかわるコンプライアンスチェック

- a. 担当ファンドマネジャー等においては、日次でリスク管理およびポジション管理を行っており、管理部門においても組入比率等の基礎数値を計算してリスク管理を行っています。
- b. 売買執行にかかるコンプライアンスチェックについては、事前チェックをトレーディング部が、売買執行後の事後チェックを管理部門がそれぞれ担当し、そのチェック状況についてコンプライアンス室に報告を行っています。

- c. コンプライアンス室においては、信託約款や運用計画書に規定された資産配分、運用内容の遵守状況、ファンド間売買等についてのチェックを行っています。
- d. コンプライアンス実践の責任者として、コンプライアンス・オフィサーを配置しています。コンプライアンス・オフィサーは社長の命を受けて、運用にかかるコンプライアンスの実践に関する基本方針を立案し、各部およびコンプライアンス室に対して必要な指示を行う権限を有しています。
- e. コンプライアンス・オフィサーが主催し経営陣が参加して開催されるコンプライアンス委員会においては、コンプライアンス状況の報告が行われ、問題案件等がある場合には、それらについての対応策、改善策、是正措置等を協議決定することとしています。

(注)委員会および部・室の名称等は変更される場合があります。

#### 4【手数料等及び税金】

##### (1)【申込手数料】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、3.24%(税抜3.0%)<sup>注</sup>を上限として販売会社が個別に定める率を乗じて得た額とします。ただし、「自動けいぞく投資コース」において、収益分配金を再投資する場合は、申込手数料はかかりません。

注：ここでの税とは、申込手数料にかかる消費税等をいいます。

##### (2)【換金(解約)手数料】

換金(解約)手数料はありません。

##### (3)【信託報酬等】

信託報酬は、信託期間を通じて毎日、純資産総額に対し年1.458%(税抜1.35%)<sup>注</sup>の率を乗じて得た額とし、信託財産の費用として計上されます。信託報酬の支払いは、毎計算期末または信託終了の時に信託財産中から支弁します。

注：ここでの税とは、信託報酬にかかる消費税等をいいます(以下の配分においても同じです。)

信託報酬の配分は次のとおりです。

委託会社	販売会社	受託会社
年率0.57%(税抜)	年率0.70%(税抜)	年率0.08%(税抜)

##### (4)【その他の手数料等】

換金する受益者が負担する信託財産留保額として、解約請求受付日の翌営業日の基準価額から当該基準価額に0.3%の率を乗じて得た額が差し引かれ、信託財産に残されます。

信託財産に関する租税、信託財産にかかる監査費用および信託事務の処理に要する諸費用ならびに受託会社の立て替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

監査費用は、毎日、純資産総額に対し、年0.01%(税抜)<sup>注</sup>の率を乗じて得た額とします。ただし、年40万円(税抜)<sup>注</sup>を上限とします。監査費用は、監査法人との契約等により変更になることがあります。

注：別途消費税等相当額がかかります。

ファンドの組入有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引・スワップ取引・金利先渡取引・為替先渡取引・外国為替予約取引に要する費用、公社債の借入れにかかる費用、資産を外国で保管する場合の費用ならびに借入金の利息等は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。これらの費用に消費税等がかかる場合は、その消費税等相当額を信託財産中から支弁します。これらの費用は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

当該手数料等の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## (5) 【課税上の取扱い】

日本の居住者(法人を含みます。)である受益者に対する課税については、以下のような取扱いとなります。

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。

個別元本について

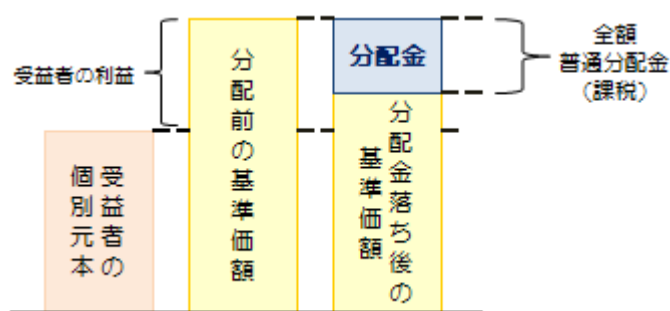
- 1) 追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本をいいます。  
受益者毎の信託時の受益権の価額等(申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。)が当該受益者の元本(個別元本)にあたります。
- 2) 受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより計算されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については、販売会社毎に個別元本が計算されます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合は当該支店等毎に、「分配金受取コース」と「自動けいぞく投資コース」の両コースで取得する場合はコース別に、個別元本が計算される場合があります。
- 3) 受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)とがあります。

### 1) 普通分配金

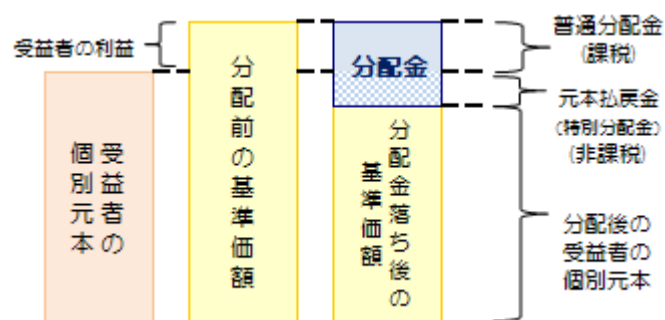
<イメージ図>



収益分配金落ち後の基準価額が、当該受益者の個別元本と同額または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。

### 2) 元本払戻金(特別分配金)

<イメージ図>



収益分配金落ち後の基準価額が、当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。なお、受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

上図は、あくまでもイメージ図であり、個別元本や基準価額、収益分配金の各水準等を示唆するものではありません。

税法等が改正された場合には、上記の内容が変更になることがあります。

個人、法人別の課税の取扱いについて

#### 1) 個人の受益者に対する課税

##### a. 収益分配金に対する課税

個人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち、課税扱いとなる普通分配金については、配当所得として、20.315%(所得税および復興特別所得税15.315%、地方税5%)の税率による源泉徴収が行われ、原則として確定申告の必要はありません。

なお、確定申告を行い、総合課税(配当控除の適用はありません。)または申告分離課税を選択することもできます。

b. ご換金(解約)時および償還時における課税

解約時の解約価額<sup>注</sup>および償還時の償還価額から取得費(申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額を含みます。)を控除した差益(譲渡益)は、譲渡所得として課税対象となり、申告分離課税が適用されます。特定口座(源泉徴収あり)の利用も可能です。

その税率は、20.315%(所得税および復興特別所得税15.315%、地方税5%)です。

注:解約価額とは、基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額です。

c. 損益通算について

解約時および償還時の損失(譲渡損)については、確定申告により、上場株式等の譲渡益および上場株式等の配当等との損益通算が可能です。また、解約時および償還時の譲渡益については、他の上場株式等の譲渡損との損益通算が可能です。

d. 少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」をご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。NISA口座での損失と他の口座での配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。

満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

2) 法人の受益者に対する課税

a. 収益分配金に対する課税

法人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち、課税扱いとなる普通分配金については15.315%(所得税および復興特別所得税)の税率で源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。

b. ご換金(解約)時および償還時における課税

解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%(所得税および復興特別所得税)の税率で源泉徴収されます。地方税の徴収はありません。

c. 益金不算入制度の適用はありません。

確定拠出年金制度にかかる受益者に対する課税上の取扱い

確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用され、当ファンドの収益分配時、ご換金(解約)時および償還時における課税は行われません。

上記は、平成26年2月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更される場合があります。

税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

## 5【運用状況】

### (1)【投資状況】

平成26年2月28日現在の資産別および地域別の投資状況は次のとおりです。

資産の種類	投資国 または地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	3,419,488,290	93.82
投資信託受益証券	アメリカ	218,992,706	6.01
コール・ローン、その他(負債控除後)		6,081,423	0.17
合計(純資産総額)		3,644,562,419	100.00

(注1)平成26年2月28日現在のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算しています。

(注2)投資比率とは、純資産総額に対する当該資産の時価合計の比率をいいます。

(注3)投資比率は、小数点第3位を四捨五入しています。

<参考> マザーファンドの投資状況

アセアン株式マザーファンド

平成26年2月28日現在の資産別および地域別の投資状況は次のとおりです。

資産の種類	投資国または地域	時価合計(円)	投資比率(%)
-------	----------	---------	---------

株式	インドネシア	1,338,754,868	39.15
	マレーシア	577,625,716	16.89
	タイ	554,713,502	16.22
	シンガポール	499,613,728	14.61
	フィリピン	433,051,155	12.66
投資信託受益証券	アメリカ	8,785,189	0.26
コール・ローン、その他(負債控除後)		6,806,235	0.20
合計(純資産総額)		3,419,350,393	100.00

(注1) 平成26年2月28日現在のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算しています。

(注2) 投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価合計の比率をいいます。

(注3) 投資比率は、小数点第3位を四捨五入しています。

## (2) 【投資資産】

### 【投資有価証券の主要銘柄】

#### 1) 主要銘柄の明細(平成26年2月28日現在)

種類	銘柄	国/地域	業種	数量 (口)	簿価 単価 (円)	簿価金額 (円)	評価 単価 (円)	評価金額 (円)	投資 比率 (%)
1	親投資信託 受益証券 アセアン株式マザーファ ンド	日本	-	3,718,047,505	8,998	3,345,499,144	9,197	3,419,488,290	93.82
2	投資信託 受益証券 ISHARES MSCI INDONESIA ETF	アメ リカ	-	32,300	2,384	77,015,364	2,620	84,621,413	2.32
3	投資信託 受益証券 ISHARES MSCI THAILAND CAPPED ETF	アメ リカ	-	5,300	6,831	36,204,297	7,049	37,360,500	1.03
4	投資信託 受益証券 ISHARES MSCI MALAYSIA ETF	アメ リカ	-	23,400	1,532	35,852,502	1,574	36,830,514	1.01
5	投資信託 受益証券 ISHARES MSCI SINGAPORE ETF	アメ リカ	-	25,000	1,295	32,365,950	1,300	32,493,375	0.89
6	投資信託 受益証券 ISHARES MSCI PHILIPPINES ETF	アメ リカ	-	8,000	3,142	25,134,326	3,461	27,686,904	0.76

(注1) 平成26年2月28日現在のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算しています。

(注2) 投資比率とは、純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率をいいます。

(注3) 投資比率は、小数点第3位を四捨五入しています。

#### 2) 種類別投資比率(平成26年2月28日現在)

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	親投資信託受益証券	93.82
外国	投資信託受益証券	6.01
合計		99.83

### 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

### 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

<参考> マザーファンドの投資資産

#### アセアン株式マザーファンド

##### 投資有価証券の主要銘柄

#### 1) 主要銘柄の明細(評価金額上位30銘柄)

平成26年2月28日現在

種類	銘柄名 国/地域	通貨	業種	数量 (株)	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	投資 比率 (%)
----	-------------	----	----	-----------	---------------------	---------------------	-----------------



1	ASTRA INTERNATIONAL TBK PT 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	自動車・自動車部品	2,819,500	61 171,820,330	59 166,237,720	4.86
2	BANK CENTRAL ASIA TBK PT 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	銀行	1,717,000	87 149,585,040	91 155,628,880	4.55
3	TELEKOMUNIKASI INDONESIA PER 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	電気通信サービス	6,318,500	20 123,716,230	20 127,052,398	3.72
4	BANK RAKYAT INDONESIA PERSER 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	銀行	1,546,500	73 113,296,590	81 125,204,640	3.66
5	BANK MANDIRI PERSERO TBK PT 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	銀行	1,300,000	77 100,100,000	79 102,960,000	3.01
6	DBS GRP HLDGS 株式 シンガポール	シンガポール ドル	銀行	50,000	1,402 70,104,600	1,322 66,075,600	1.93
7	PERUSAHAAN GAS NEGARA PERSER 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	公益事業	1,519,500	39 58,634,466	43 65,520,840	1.92
8	SINGAPORE TELECOM LTD 株式 シンガポール	シンガポール ドル	電気通信サービス	211,000	284 59,848,378	294 62,058,687	1.81
9	UNITED OVERSEAS BANK LTD 株式 シンガポール	シンガポール ドル	銀行	37,000	1,651 61,090,115	1,668 61,716,222	1.80
10	OVERSEA-CHINESE BANKING CORP 株式 シンガポール	シンガポール ドル	銀行	76,000	782 59,464,817	772 58,668,686	1.72
11	SIAM COMMERCIAL BANK P-NVDR 株式 タイ	タイ バーツ	銀行	116,200	459 53,293,968	473 54,925,416	1.61
12	SEMEN INDONESIA PERSERO TBK 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	素材	413,000	134 55,242,880	127 52,517,080	1.54
13	UNILEVER INDONESIA TBK PT 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	家庭用品・パーソナル用品	212,500	243 51,705,500	247 52,406,750	1.53
14	MALAYAN BANKING BHD 株式 マレーシア	マレーシア リンギット	銀行	171,500	305 52,286,577	302 51,753,041	1.51
15	PTT PCL-NVDR 株式 タイ	タイ バーツ	エネルギー	56,400	899 50,678,784	895 50,502,816	1.48
16	ADVANCED INFO SERVICE-NVDR 株式 タイ	タイ バーツ	電気通信サービス	68,500	668 45,736,080	658 45,094,920	1.32
17	AYALA LAND INC 株式 フィリピン	フィリピン ペソ	不動産	676,900	60 40,821,131	67 45,065,294	1.32
18	PTT EXPLOR & PROD PCL-NVDR 株式 タイ	タイ バーツ	エネルギー	91,500	496 45,391,320	476 43,535,700	1.27
19	CIMB GROUP HOLDINGS BHD 株式 マレーシア	マレーシア リンギット	銀行	192,000	221 42,395,430	221 42,409,152	1.24
20	KASIKORNBANK PCL-FOREIGN 株式 タイ	タイ バーツ	銀行	77,200	537 41,428,608	541 41,789,904	1.22
21	TENAGA NASIONAL BHD 株式 マレーシア	マレーシア リンギット	公益事業	111,000	357 39,573,787	372 41,300,392	1.21
22	BANK NEGARA INDONESIA PERSER 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	銀行	1,039,000	38 39,087,180	40 41,190,116	1.20
23	KALBE FARMA TBK PT 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	医薬品・バイオテクノロジー ・ライフサイエンス	3,183,000	12 38,934,456	12 39,214,560	1.15
24	INDOCEMENT TUNGGAL PRAKARSA 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	素材	205,000	193 39,507,600	191 39,191,900	1.15
25	UNITED TRACTORS TBK PT 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	資本財	234,000	170 39,742,560	163 38,198,160	1.12
26	CHAROEN POKPHAND INDONESIA PT 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	食品・飲料・タバコ	1,028,000	34 35,416,656	37 37,994,880	1.11
27	INDOFOOD SUKSES MAKMUR TBK PT 株式 インドネシア	インドネシア ルビア	食品・飲料・タバコ	611,500	59 35,919,510	62 37,802,930	1.11
28	CP ALL PCL-NVDR 株式 タイ	タイ バーツ	食品・生活必需品小売り	289,900	123 35,727,276	121 35,048,910	1.03

29	UNIVERSAL ROBINA CORP 株式 フィリピン	フィリピン ペソ	食品・飲料・タバコ	104,200	278 28,936,757	319 33,260,640	0.97
30	BDO UNIBANK INC 株式 フィリピン	フィリピン ペソ	銀行	171,040	165 28,175,419	190 32,543,097	0.95

(注1) 平成26年2月28日現在のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算しています。

(注2) 投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率をいいます。

(注3) 投資比率は、小数点第3位を四捨五入しています。

## 2) 業種別投資比率

平成26年2月28日現在

国内 / 外国	業種	投資比率 (%)
外国	銀行	29.90
	電気通信サービス	11.37
	資本財	8.43
	食品・飲料・タバコ	7.71
	不動産	5.55
	素材	5.48
	エネルギー	5.48
	公益事業	5.15
	自動車・自動車部品	5.09
	運輸	2.90
	消費者サービス	2.58
	メディア	2.23
	各種金融	2.03
	家庭用品・パーソナル用品	1.53
	小売	1.21
	食品・生活必需品小売り	1.19
医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1.15	
ヘルスケア機器・サービス	0.57	
合計		99.54

(注1) 投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する各業種の評価額比率をいいます。

(注2) 投資比率は、小数点第3位を四捨五入しています。

### 投資不動産物件

該当事項はありません。

### その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

## (3) 【運用実績】

### 【純資産の推移】

	純資産総額(円)	基準価額(円) (1万口当たりの純資産額)
第1特定期間末 (平成25年 7月18日)	(分配付) 5,247,093,564	(分配付) 9,867
	(分配落) 5,247,093,564	(分配落) 9,867
第2特定期間末 (平成26年 1月20日)	(分配付) 3,796,088,138	(分配付) 8,838
	(分配落) 3,796,088,138	(分配落) 8,838
平成25年 3月末	3,115,930,385	10,008
4月末	5,157,621,764	10,593
5月末	5,543,728,804	10,800
6月末	5,058,076,829	9,583
7月末	5,070,866,788	9,497
8月末	4,417,972,543	8,289

9月末	4,651,421,080	8,786
10月末	4,676,256,060	9,358
11月末	4,034,528,233	8,862
12月末	3,797,206,029	8,804
平成26年 1月末	3,616,200,277	8,610
平成26年 2月28日	3,644,562,419	9,030

## 【分配の推移】

		1万口当たりの分配額(円)
第1特定期間	自 平成25年 3月27日	0
	至 平成25年 7月18日	
第2特定期間	自 平成25年 7月19日	0
	至 平成26年 1月20日	

## 【収益率の推移】

期間		収益率(%)
第1特定期間	自 平成25年 3月27日	1.33
	至 平成25年 7月18日	
第2特定期間	自 平成25年 7月19日	10.43
	至 平成26年 1月20日	

(注) 収益率は、特定期間末の基準価額(分配付の額)から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額(分配落の額。以下「前特定期間末基準価額」といいます。)を控除した額を前特定期間末基準価額で除して計算し、小数点第3位を四捨五入しています。なお、第1特定期間については、前特定期間末基準価額を10,000円として計算しています。

## (4) 【設定及び解約の実績】

期間		設定数量(口)	解約数量(口)
第1特定期間	自 平成25年 3月27日	5,966,823,396	649,091,178
	至 平成25年 7月18日		
第2特定期間	自 平成25年 7月19日	145,813,521	1,168,406,432
	至 平成26年 1月20日		

(注1) 日本国外における設定および解約はありません。

(注2) 第1特定期間の設定数量には、当初設定口数を含みます。

(参考情報)



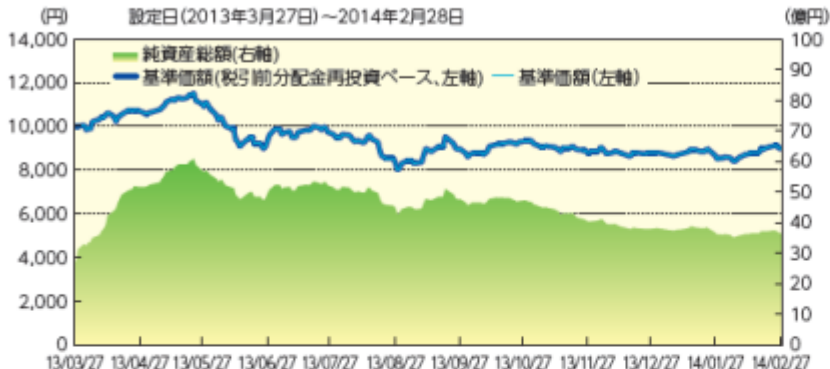
# 運用実績

(2014年2月28日現在)

## ● 基準価額・純資産の推移

基準価額 9,030円 純資産総額 36.44億円

(円) 設定日(2013年3月27日)～2014年2月28日



※基準価額(税引前分配金再投資ベース)は信託報酬控除後であり、税引前分配金を再投資したものと計算しています。

※基準価額は信託報酬控除後です。

## ● 分配の推移

決算期	分配金
2013年4月	0円
2013年7月	0円
2013年10月	0円
2014年1月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万口当たり、税引前の金額です。

## ● 主要な資産の状況

※比率は、ファンドの純資産総額に対する実質投資比率です。

### 資産別構成

資産別	比率
株式	93.4%
上場投資信託証券	6.2%
その他資産	0.4%
合計	100.0%

### 国別構成

国名	比率
インドネシア	39.1%
マレーシア	16.9%
タイ	16.2%
シンガポール	14.8%
フィリピン	12.6%

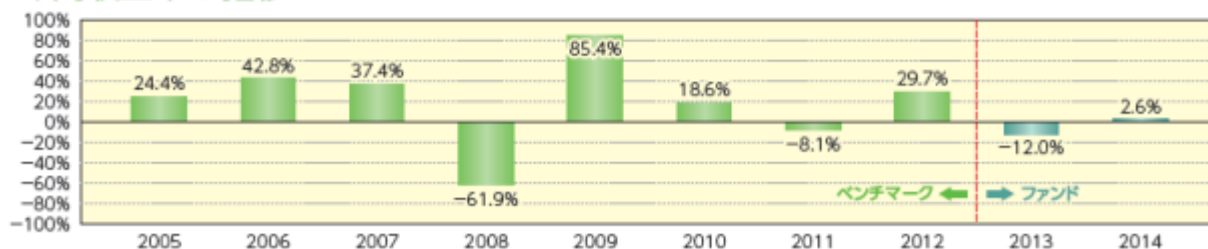
※上場投資信託証券(ETF)は、ETFの参照インデックスの国に準じて分類しています。

### 組入上位10銘柄

順位	銘柄名	投資国	業種名	比率
1	ASTRA INTERNATIONAL TBK PT	インドネシア	自動車・自動車部品	4.6%
2	BANK CENTRAL ASIA TBK PT	インドネシア	銀行	4.3%
3	TELEKOMUNIKASI INDONESIA PER	インドネシア	電気通信サービス	3.5%
4	BANK RAKYAT INDONESIA PERSER	インドネシア	銀行	3.4%
5	BANK MANDIRI PERSERO TBK PT	インドネシア	銀行	2.8%
6	ISHARES MSCI INDONESIA ETF	アメリカ	-	2.3%
7	DBS GRP HLDGS	シンガポール	銀行	1.8%
8	PERUSAHAAN GAS NEGARA PERSER	インドネシア	公益事業	1.8%
9	SINGAPORE TELECOM LTD	シンガポール	電気通信サービス	1.7%
10	UNITED OVERSEAS BANK LTD	シンガポール	銀行	1.7%

※業種はGICS(世界産業分類基準)に基づく24産業グループによります。

## ● 年間収益率の推移



※年間収益率は、税引前分配金を再投資したものと計算しています。

※2013年は設定日(3月27日)から年末まで、2014年は2月28日までの収益率を表示しています。

※2005年～2012年は、ファンドのベンチマークである「MSCI東南アジアGDPアロケーション指数(円換算ベース)」の年間収益率です。

※ベンチマークはあくまで参考情報であり、ファンドの運用実績ではありません。

・ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。  
・最新の運用状況は、委託会社のホームページで確認することができます。

## 第2【管理及び運営】

### 1【申込(販売)手続等】

取得申込みは、申込期間における販売会社の営業日にいつでも行うことができます。申込受付時間は、原則として午後3時<sup>注</sup>までとし、当該取得申込みにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分として取り扱います。ただし、取得申込日が次に掲げる日に該当する場合には、受益権の取得申込みの受付は行いません。該当する日については、販売会社または委託会社までお問い合わせください。

- ・インドネシア証券取引所の休業日
- ・インドネシアの銀行の休業日
- ・投資対象国の取引所または銀行の休業日で委託会社が指定する日

注：販売会社によっては午後3時より前に受け付けを締め切ることがありますので、各販売会社にご確認ください。

取得申込者は、販売会社に取引口座を開設のうえ、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込金額の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行います。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行います。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行います。

当ファンドには、収益分配金の受取方法の別により、収益分配金を受け取る「分配金受取コース」と、税金を差し引いた後の収益分配金を無手数料で再投資する「自動けいぞく投資コース」の2つの申込方法があります。申込方法および申込単位は、販売会社が個別に定めるものとします。ただし、「自動けいぞく投資コース」における収益分配金の再投資については、1口単位となります。

お申込価額は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額です。取得申込みには、お申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等が別に加算されます。ただし、「自動けいぞく投資コース」における収益分配金の再投資については、当該計算期間終了日の基準価額となります。

お申込手数料は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、3.24%(税抜3.0%)<sup>注</sup>を上限として販売会社が個別に定める率を乗じて得た額とします。

注：ここでの税とは、申込手数料にかかる消費税等をいいます。

取得申込者は、取得申込金額をお申込みの販売会社に、当該販売会社が指定する期日までに支払うものとします。

「自動けいぞく投資コース」を選択する場合には、販売会社との間で「自動けいぞく投資約款<sup>注</sup>」にしたがって契約を締結します。

また、「自動けいぞく投資コース」を選択した取得申込者が、「定時定額購入サービス」を利用する場合には、販売会社との間で「定時定額購入サービス」等に関する契約<sup>注</sup>を締結するものとします。なお、「定時定額購入サービス」等の取扱いの有無については、お申込みの販売会社にご確認ください。

注：販売会社によっては、当該契約または規定について、同様の権利義務関係を定める名称の異なる契約または規定を使用することがあります。この場合、当該別の名称に読み替えるものとします。

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止(個別銘柄の売買停止等を含みます。)、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情(実質的な投資対象国における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)による市場の閉鎖または流動性の極端な減少等)があるときは、取得申込みの受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた取得申込みの受け付けを取り消すことがあります。

### 2【換金(解約)手続等】

<解約請求について>

解約請求は、販売会社の営業日にいつでも行うことができます。受付時間は、原則として午後3時<sup>注</sup>までとし、当該解約請求にかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の解約請求受付分として取り扱います。ただし、解約請求日が次に掲げる日に該当する場合には、当該解約請求の受け付けは行いません。該当する日については、販売会社または委託会社までお問い合わせください。

- ・インドネシア証券取引所の休業日
- ・インドネシアの銀行の休業日
- ・投資対象国の取引所または銀行の休業日で委託会社が指定する日

注：販売会社によっては午後3時より前に受け付けを締め切ることがありますので、各販売会社にご確認ください。

委託会社は、解約請求を受け付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。

解約請求を行う受益者は、販売会社に対し振替受益権をもって行うものとします。解約請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

ご解約単位は、販売会社が個別に定める単位とします。

ご解約価額は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額(基準価額の0.3%)を差し引いた額です。1口当たりの解約価額に解約口数を乗じて得た額から、税金を差し引いた額がお受取金額となります。

ご解約代金は、解約請求受付日から起算して、原則として7営業日目から販売会社の営業所等において受益者に支払われます。

信託財産の資金管理を円滑に行うために大口の解約請求には制限を設ける場合があります。

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止(個別銘柄の売買停止等を含みます。)、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情(実質的な投資対象国における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)による市場の閉鎖または流動性の極端な減少等)があるときは、解約請求の受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた解約請求の受け付けを取り消すことがあります。

### 3【資産管理等の概要】

#### (1)【資産の評価】

##### 基準価額の計算

基準価額は、信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。)を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額(以下「純資産総額」といいます。)を計算日における受益権総口数で除して計算します。

当ファンドにおいては、1万口当たりの価額として表示されます。

当ファンドの信託財産に属する資産のうち、主要投資対象およびその評価方法は以下のとおりです。

アセアン株式マザーファンド受益証券	移動平均法に基づき、基準価額により評価します。
-------------------	-------------------------

なお、外貨建資産の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。また、予約為替の評価は、原則としてわが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

#### <参考> マザーファンドの主要投資対象およびその評価方法

株 式	移動平均法に基づき、原則として時価で評価します。時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場(最終相場のないものについては、それに準ずる価額)、または金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価します。
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

##### 基準価額の計算頻度と公表

基準価額は、委託会社の毎営業日に計算されます。

基準価額は、販売会社または委託会社へお問い合わせいただけるほか、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。



委託会社：朝日ライフ アセットマネジメント株式会社

ホームページ <http://www.alamco.co.jp/>

フリーダイヤル 0120-283-104  
(営業日の9:00~17:00)

## (2)【保管】

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。したがって、委託会社は受益証券を発行しません。

## (3)【信託期間】

信託期間は無期限です。

「(5)その他 信託の終了(償還)」の規定により信託を終了させる場合があります。

## (4)【計算期間】

原則として、毎年1月19日から4月18日まで、4月19日から7月18日まで、7月19日から10月18日まで、10月19日から翌年1月18日までとします。

各計算期間終了日に該当する日が休業日のときは該当日の翌営業日を各計算期間の終了日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

## (5)【その他】

信託の終了(償還)

- 1) 委託会社は、信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合またはこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるときもしくはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- 2) 委託会社は、1)の事項について、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- 3) 2)の書面決議において、受益者(委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託者を除きます。以下3)において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- 4) 2)の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- 5) 2)から4)までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、2)から4)までの手続きを行うことが困難な場合も同様とします。
- 6) 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し、信託を終了させます。
- 7) 委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、「信託約款の変更等4)」の書面決議で否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
- 8) 受託会社はその任務を辞任した場合または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

## 信託約款の変更

- 1) 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合(投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。)を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は1)から7)までに定める以外の方法によって変更することができないものとします。
- 2) 委託会社は、1)の事項(1)の変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限ります。以下、併合と合わせて「重大な約款の変更等」といいます。)について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- 3) 2)の書面決議において、受益者(委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託者を除きます。以下本項において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- 4) 2)の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- 5) 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
- 6) 2)から5)までの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- 7) 1)から6)までの規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合にかかる一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。
- 8) 委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、1)から7)までの規定にしたがいます。

## 反対者の買取請求

信託契約の解約または重大な約款変更等を行う場合には、書面決議において当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨を請求できます。この買取請求権の内容および買取請求の手続きに関する事項は、「信託の終了(償還)2)」または「信託約款の変更等2)」に規定する書面に付記します。

## 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

## 運用報告書の作成および交付

委託会社は、毎年1月および7月の計算期末および償還時に運用経過のほか信託財産の内容、有価証券売買の状況などを記載した運用報告書を作成し、信託財産にかかる知れている受益者に交付します。

## 関係法人との契約の更改

- 1) 委託会社と受託会社との間の信託契約は無期限です。ただし、「信託の終了(償還)」に該当することとなった場合には解約されます。
- 2) 委託会社と販売会社との間の募集・販売等に関する契約は、期間満了の3ヵ月前までに委託会社および販売会社のいずれからも別段の意思表示がない限り、同一の条件で更新されます。

## 信託事務処理の委託

受託会社は、再信託受託会社と再信託契約を締結することにより、当ファンドの信託財産すべてを再信託受託会社へ移管し、当ファンドにかかる信託事務処理の一部を委託することがあります。その場合には、信託財産の管理にかかる事務のうち再信託にかかる契約書類に基づく所定の事務を行います。

なお、再信託受託会社が受ける信託事務処理の一部の委託にかかる報酬は、受託会社が受け取る信託報酬の中から当事者間で支払われるものとし、信託財産からの直接的な支弁は行いません。

#### 4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次のとおりです。

##### 収益分配金に対する請求権

受益者は、委託会社の決定した収益分配金を、持ち分に応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、毎計算期間の終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として決算日から起算して5営業日まで)から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で、取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については、原則として取得申込者として)に支払います。

「自動けいぞく投資コース」をお申込みの場合は、収益分配金は税引き後無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

受益者が支払開始日から5年間請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属するものとします。

##### 償還金に対する請求権

受益者は、償還金を、持ち分に応じて請求する権利を有します。

償還金は、信託終了日(以下「償還日」といいます。)後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として償還日から起算して5営業日まで)から、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で、取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については、原則として取得申込者として)に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して、委託会社がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい、当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われず。

受益者が支払開始日から10年間請求を行わない場合は、その権利を失い、その金銭は委託会社に帰属するものとします。

##### 換金(解約)請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に解約請求をすることができます。詳細は、「第2 管理及び運営 2 換金(解約)手続等」の記載をご参照ください。

##### 帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当ファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧を請求することができます。

### 第3【ファンドの経理状況】

当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

当ファンドの計算期間は6ヶ月未満であるため、財務諸表は6ヶ月ごとに作成しております。

当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間(平成25年7月19日から平成26年1月20日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

## 1【財務諸表】

朝日ライフ・MSC・グローイング・アセアン株式ファンド

## (1)【貸借対照表】

(単位：円)

	前期 (平成25年 7月18日現在)	当期 (平成26年 1月20日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	8,307,618	717
コール・ローン	40,430,646	35,615,701
投資信託受益証券	694,642,501	446,667,024
親投資信託受益証券	4,532,210,775	3,345,499,144
未収利息	33	29
流動資産合計	5,275,591,573	3,827,782,615
資産合計	5,275,591,573	3,827,782,615
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払解約金	9,707,000	16,426,859
未払受託者報酬	1,104,011	892,307
未払委託者報酬	17,526,131	14,165,311
その他未払費用	160,867	210,000
流動負債合計	28,498,009	31,694,477
負債合計	28,498,009	31,694,477
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	5,317,732,218	4,295,139,307
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )	70,638,654	499,051,169
(分配準備積立金)	190,638,116	159,626,028
元本等合計	5,247,093,564	3,796,088,138
純資産合計	5,247,093,564	3,796,088,138
負債純資産合計	5,275,591,573	3,827,782,615

## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	前期		当期	
	自	平成25年 3月27日 至 平成25年 7月18日	自	平成25年 7月19日 至 平成26年 1月20日
<b>営業収益</b>				
受取配当金		8,307,584		3,925,109
受取利息		13,189		6,842
有価証券売買等損益		205,363,505		518,811,685
為替差損益		55,591,444		9,688,343
営業収益合計		141,451,288		505,191,391
<b>営業費用</b>				
受託者報酬		1,287,204		1,915,465
委託者報酬		20,434,291		30,407,943
その他費用		305,647		631,853
営業費用合計		22,027,142		32,955,261
営業利益		163,478,430		538,146,652
経常利益		163,478,430		538,146,652
当期純利益		163,478,430		538,146,652
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額		28,727,640		43,455,232
期首剰余金又は期首欠損金( )		-		70,638,654
剰余金増加額又は欠損金減少額		156,412,515		76,361,873
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		76,361,873
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		156,412,515		-
剰余金減少額又は欠損金増加額		34,845,099		10,082,968
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		34,845,099		-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		10,082,968
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金( )		70,638,654		499,051,169

## （３）【注記表】

## （重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、有価証券報告書における開示対象ファンドの特定期間末日の金融商品取引所又は店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。</p>
2. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	<p>信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における特定期間末日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。</p>
3. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金 原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を計上し、未だ確定していない場合には入金日基準で計上しております。</p> <p>有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。</p> <p>為替差損益 約定日基準で計上しております。</p>

## （貸借対照表に関する注記）

前期 (平成25年 7月18日現在)	当期 (平成26年 1月20日現在)
<p>1. 信託財産に係る期首元本額、 期中追加設定元本額および期 中一部解約元本額</p> <p>期首元本額 2,722,783,842円</p> <p>期中追加設定元本額 3,244,039,554円</p> <p>期中一部解約元本額 649,091,178円</p>	<p>1. 信託財産に係る期首元本額、 期中追加設定元本額および期 中一部解約元本額</p> <p>期首元本額 5,317,732,218円</p> <p>期中追加設定元本額 145,813,521円</p> <p>期中一部解約元本額 1,168,406,432円</p>
<p>2. 特定期間の末日における受益 権の総数 5,317,732,218口</p>	<p>2. 特定期間の末日における受益 権の総数 4,295,139,307口</p>
<p>3. 元本の欠損 貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その金額は70,638,654円であります。</p>	<p>3. 元本の欠損 貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その金額は499,051,169円であります。</p>
<p>4. 1単位(1万口)当たりの純資 産額 9,867円</p> <p>(1口当たりの純資産額) (0.9867円)</p>	<p>4. 1単位(1万口)当たりの純資 産額 8,838円</p> <p>(1口当たりの純資産額) (0.8838円)</p>

## （損益及び剰余金計算書に関する注記）



項目	前期		当期	
	自 平成25年 3月27日 至 平成25年 7月18日		自 平成25年 7月19日 至 平成26年 1月20日	
1. 分配金の計算過程	第1期		第3期	
	平成25年 3月27日		平成25年 7月19日	
	平成25年 4月18日		平成25年10月18日	
	費用控除後の配当等収益額	4,403,592円	費用控除後の配当等収益額	8,851,811円
	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	164,571,860円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	円
	収益調整金額	50,760,856円	収益調整金額	58,192,408円
	分配準備積立金額	円	分配準備積立金額	182,182,510円
	当ファンドの分配対象収益額	219,736,308円	当ファンドの分配対象収益額	249,226,729円
	当ファンドの期末残存口数	4,582,516,847口	当ファンドの期末残存口数	5,184,914,231口
	10,000口当たり収益分配対象額	479円	10,000口当たり収益分配対象額	480円
	10,000口当たり分配金額	円	10,000口当たり分配金額	円
	収益分配金金額	円	収益分配金金額	円
	第2期		第4期	
	平成25年 4月19日		平成25年10月19日	
	平成25年 7月18日		平成26年 1月20日	
	費用控除後の配当等収益額	40,933,214円	費用控除後の配当等収益額	円
	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	円
	収益調整金額	55,072,426円	収益調整金額	48,925,699円
	分配準備積立金額	149,704,902円	分配準備積立金額	159,626,028円
	当ファンドの分配対象収益額	245,710,542円	当ファンドの分配対象収益額	208,551,727円
当ファンドの期末残存口数	5,317,732,218口	当ファンドの期末残存口数	4,295,139,307口	
10,000口当たり収益分配対象額	462円	10,000口当たり収益分配対象額	485円	
10,000口当たり分配金額	円	10,000口当たり分配金額	円	
収益分配金金額	円	収益分配金金額	円	

## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の状況に関する事項

項目	期別	前期	当期
		自 平成25年 3月27日 至 平成25年 7月18日	自 平成25年 7月19日 至 平成26年 1月20日
1. 金融商品に対する取組方針		当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資して運用することを目的としております。	同左

2.金融商品の内容およびリスク	<p>当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権および金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「(有価証券に関する注記)」に記載しております。</p> <p>これらは、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、カントリーリスク、信用リスク、および流動性リスクに晒されております。</p> <p>また、当ファンドは、信託財産に属する外貨建資金の受渡を行うことを目的として、為替予約取引を利用しております。</p>	同左
3.金融商品に係るリスクの管理体制	<p>委託会社においては、パフォーマンスおよびリスクの状況は社内で一元的に管理しています。パフォーマンス評価およびリスク管理を行う上での分析の基礎となるデータは各種のリスクモデル等によりデータベース化しています。当ファンドのリスク分析とパフォーマンスの要因分析の結果は、運用責任者、経営陣を主要参加メンバーとするパフォーマンス評価・リスク管理委員会において報告され、運用計画と運用成果との整合性を検証することにより、当ファンドの品質の維持管理に努めています。</p> <p>また、コンプライアンス部門において、信託約款や運用計画書の遵守状況ならびに執行・組入れに係る管理状況を審査し、必要に応じて速やかに関連部門へ注意・勧告を行っております。</p>	同左
4.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引の市場リスクの大きさを示すものではありません。</p>	同左

## 金融商品の時価等に関する事項

前期 (平成25年 7月18日現在)	当期 (平成26年 1月20日現在)
-----------------------	-----------------------

<p>1.貸借対照表計上額、時価及びその差額 貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませ ん。</p> <p>2.時価の算定方法 (1)投資信託受益証券および親投資信託受益証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載してお ります。 (2)コール・ローン等の金銭債権および金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価 と近似していることから、当該帳簿価額を時価としておりま す。</p>	<p>1.貸借対照表計上額、時価及びその差額 同左</p> <p>2.時価の算定方法 (1)投資信託受益証券および親投資信託受益証券 同左 (2)コール・ローン等の金銭債権および金銭債務 同左</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

前期(自平成25年 3月27日 至平成25年 7月18日)

(単位:円)

種類	最終計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	61,885,849
親投資信託受益証券	289,009,224
合計	350,895,073

当期(自平成25年 7月19日 至平成26年 1月20日)

(単位:円)

種類	最終計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	15,286,805
親投資信託受益証券	127,529,031
合計	142,815,836

## (デリバティブ取引等に関する注記)

## 取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## (関連当事者との取引に関する注記)

前期 自 平成25年 3月27日 至 平成25年 7月18日	当期 自 平成25年 7月19日 至 平成26年 1月20日
該当事項はありません。	同左

## (4)【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## 1) 株式(平成26年 1月20日現在)

該当事項はありません。

## 2) 株式以外の有価証券(平成26年 1月20日現在)

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	米ドル	ISHARES MSCI INDONESIA ETF	70,600	1,651,334.00	
		ISHARES MSCI MALAYSIA ETF	48,200	724,446.00	
		ISHARES MSCI PHILIPPINES ETF	16,600	511,612.00	
		ISHARES MSCI SINGAPORE ETF	51,600	655,320.00	
		ISHARES MSCI THAILAND CAPPED ETF	11,200	750,512.00	
	米ドル 小計	銘柄数：5 組入時価比率：11.8%	198,200	4,293,224.00 (446,667,024) 100.0%	
	投資信託受益証券合計				446,667,024 (446,667,024)
親投資信託受益証券	日本円	アセアン株式マザーファンド	3,718,047,505	3,345,499,144	
	日本円 小計	銘柄数：1 組入時価比率：88.1%	3,718,047,505	3,345,499,144 100.0%	
	親投資信託受益証券合計				3,345,499,144
合計				3,792,166,168 (446,667,024)	

(注1) 親投資信託受益証券における券面総額の数値は、証券数を表示しております。

(注2) 種類別通貨計の( )内は、邦貨換算金額であります。

(注3) 小計・合計金額欄は、邦貨換算金額であります。

(注4) 組入時価比率は、左より純資産総額に対する評価額(邦貨換算金額)の割合、および、合計金額に対する評価額(邦貨換算金額)の割合であります。

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額及び時価の状況表

該当事項はありません。

## （参考情報）

当ファンドは、「アセアン株式マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同親投資信託の受益証券です。

なお、「アセアン株式マザーファンド」の状況は以下のとおりです。

「アセアン株式マザーファンド」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

## （１）貸借対照表

（単位：円）

	（平成25年 7月18日現在）	（平成26年 1月20日現在）
<b>資産の部</b>		
流動資産		
預金	3,591,321	2,941,049
コール・ローン	4,521,319	10,091,127
株式	4,509,326,434	3,328,014,755
投資信託受益証券	12,813,444	9,833,860
未収配当金	1,759,061	2,023,869
未収利息	3	8
流動資産合計	4,532,011,582	3,352,904,668
資産合計	4,532,011,582	3,352,904,668
<b>負債の部</b>		
流動負債		
派生商品評価勘定	-	70,861
未払金	-	7,196,485
流動負債合計	-	7,267,346
負債合計	-	7,267,346
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	4,551,326,346	3,718,047,505
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	19,314,764	372,410,183
元本等合計	4,532,011,582	3,345,637,322
純資産合計	4,532,011,582	3,345,637,322
負債純資産合計	4,532,011,582	3,352,904,668

## （２）注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、有価証券報告書における開示対象ファンドの特定期間末日の金融商品取引所又は店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。</p>
--------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>投資信託受益証券</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、有価証券報告書における開示対象ファンドの特定期間末日の金融商品取引所又は店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。</p>
2. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	<p>信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。</p>
3. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、わが国における有価証券報告書における開示対象ファンドの特定期間末日の対顧客先物相場の仲値によって計算しております。</p>
4. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金</p> <p>原則として、株式及び投資信託受益証券の配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を計上し、未だ確定していない場合には入金日基準で計上しております。</p> <p>有価証券売買等損益</p> <p>約定日基準で計上しております。</p> <p>為替差損益</p> <p>約定日基準で計上しております。</p>

## (貸借対照表に関する注記)

(平成25年 7月18日現在)		(平成26年 1月20日現在)	
1. 開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額、期中追加設定元本額および期中一部解約元本額		1. 開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額、期中追加設定元本額および期中一部解約元本額	
期首	平成25年 3月27日	期首	平成25年 7月19日
期首元本額	2,615,000,000円	期首元本額	4,551,326,346円
期中追加設定元本額	1,969,659,930円	期中追加設定元本額	- 円
期中一部解約元本額	33,333,584円	期中一部解約元本額	833,278,841円
元本の内訳		元本の内訳	
朝日ライフ・MSC・グロウイング・アセアン株式ファンド	4,551,326,346円	朝日ライフ・MSC・グロウイング・アセアン株式ファンド	3,718,047,505円
2. 有価証券報告書における開示対象ファンドの計算期間末日における受益権の総数	4,551,326,346口	2. 有価証券報告書における開示対象ファンドの計算期間末日における受益権の総数	3,718,047,505口
3. 元本の欠損		3. 元本の欠損	
貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その金額は19,314,764円であります。		貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その金額は372,410,183円であります。	

4. 1単位(1万口)当たりの純資産額	9,958円	4. 1単位(1万口)当たりの純資産額	8,998円
(1口当たりの純資産額)	(0.9958円)	(1口当たりの純資産額)	(0.8998円)

(注) は当該親信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額であります。

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	期別	自平成25年3月27日 至平成25年7月18日	自平成25年7月19日 至平成26年1月20日
1.金融商品に対する取組方針		当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資して運用することを目的としております。	同左
2.金融商品の内容およびリスク		当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権および金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「(有価証券に関する注記)」に記載しております。 これらは、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、カントリーリスク、信用リスク、および流動性リスクに晒されております。 また、当ファンドは、信託財産に属する外貨建資金の受渡を行うことを目的として、為替予約取引を利用しております。	同左
3.金融商品に係るリスクの管理体制		委託会社においては、パフォーマンスおよびリスクの状況は社内で一元的に管理しています。パフォーマンス評価およびリスク管理を行う上での分析の基礎となるデータは各種のリスクモデル等によりデータベース化しています。当ファンドのリスク分析とパフォーマンスの要因分析の結果は、運用責任者、経営陣を主要参加メンバーとするパフォーマンス評価・リスク管理委員会において報告され、運用計画と運用成果との整合性を検証することにより、当ファンドの品質の維持管理に努めています。 また、コンプライアンス部門において、信託約款や運用計画書の遵守状況ならびに執行・組入れに係る管理状況を審査し、必要に応じて速やかに関連部門へ注意・勧告を行っております。	同左



4.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引の市場リスクの大きさを示すものではありません。</p>	同左
---------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

## 金融商品の時価等に関する事項

(平成25年 7月18日現在)	(平成26年 1月20日現在)
<p>1.貸借対照表計上額、時価及びその差額 貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p> <p>2.時価の算定方法 (1)株式および投資信託受益証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。</p> <p>(2)コール・ローン等の金銭債権および金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>	<p>1.貸借対照表計上額、時価及びその差額 同左</p> <p>2.時価の算定方法 (1)株式および投資信託受益証券 同左</p> <p>(2)派生商品評価勘定 「(デリバティブ取引等に関する注記)」に記載しております。</p> <p>(3)コール・ローン等の金銭債権および金銭債務 同左</p>

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

(自 平成25年 3月27日 至 平成25年 7月18日)

(単位：円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	179,020,682
投資信託受益証券	1,293,282
合計	180,313,964

(自 平成25年 7月19日 至 平成26年 1月20日)

(単位：円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	277,577,137
投資信託受益証券	2,313,850

合計	279,890,987
----	-------------

(注) 当計算期間の損益に含まれた評価差額は、親投資信託の期首日から有価証券報告書における開示対象ファンドの特定期間末日までの期間に対応する金額であります。

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

(通貨関連)

(平成25年 7月18日現在)

該当事項はありません。

(平成26年 1月20日現在)

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外の 取引	為替予約取引				
	買建	5,919,159	-	5,848,298	70,861
	米ドル	190,587	-	190,467	120
	マレーシアリ ンギット	5,728,572	-	5,657,831	70,741
	売建	190,587	-	190,587	-
	マレーシアリ ンギット	89,537	-	89,537	-
	インドネシア ルピア	101,050	-	101,050	-
合計		6,109,746	-	6,038,885	70,861

時価の算定方法

為替予約取引

1) 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については以下のように評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

計算期間末日において当該日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 計算期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
- ・ 計算期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

2) 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

上記取引でヘッジ会計が適用されているものはございません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 平成25年 3月27日 至 平成25年 7月18日	自 平成25年 7月19日 至 平成26年 1月20日
該当事項はありません。	同左

(3) 附属明細表

第1 有価証券明細表

## 1) 株式(平成26年 1月20日現在)

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
シンガポール ドル	KEPPEL CORP LTD	38,000	11.01	418,380.00	
	NOBLE GROUP LTD	114,000	1.02	116,850.00	
	SEMBCORP INDUSTRIES LTD	26,000	5.34	138,840.00	
	SEMBCORP MARINE LTD	22,000	4.20	92,400.00	
	SINGAPORE TECH ENGINEERING	41,000	3.85	157,850.00	
	YANGZIJIANG SHIPBUILDING	51,000	1.21	61,710.00	
	COMFORTDELGRO CORP LTD	54,000	1.94	105,030.00	
	SINGAPORE AIRLINES LTD	14,000	10.09	141,260.00	
	GENTING SINGAPORE PLC	162,000	1.47	238,140.00	
	SINGAPORE PRESS HOLDINGS LTD	43,000	4.01	172,430.00	
	JARDINE CYCLE & CARRIAGE LTD	3,000	39.40	118,200.00	
	OLAM INTERNATIONAL LTD	39,000	1.52	59,280.00	
	GOLDEN AGRI-RESOURCES LTD	187,000	0.53	99,110.00	
	WILMAR INTERNATIONAL LTD	51,000	3.27	166,770.00	
	DBS GRP HLDGS	50,000	17.40	870,000.00	
	OVERSEA-CHINESE BANKING CORP	76,000	9.71	737,960.00	
	UNITED OVERSEAS BANK LTD	37,000	20.49	758,130.00	
	SINGAPORE EXCHANGE LTD	25,000	7.08	177,000.00	
	CAPITALAND LTD	75,000	2.92	219,000.00	
	CAPITAMALLS ASIA LTD	40,000	1.88	75,200.00	
	CITY DEVELOPMENTS	12,000	9.55	114,600.00	
	GLOBAL LOGISTIC PROPERTIES LTD	91,000	2.94	267,540.00	
	KEPPEL LAND LTD	20,000	3.24	64,800.00	
	UOL GROUP LTD	14,000	5.98	83,720.00	
SINGAPORE TELECOM LTD	211,000	3.52	742,720.00		
STARHUB LTD	16,000	4.19	67,040.00		
シンガポール ドル 小計	銘柄数：26  組入時価比率：15.3%	1,512,000		6,263,960.00  (510,575,379)  15.3%	
マレーシア リンギット	BUMI ARMADA BERHAD	40,400	4.04	163,216.00	
	PETRONAS DAGANGAN BHD	9,800	30.70	300,860.00	
	SAPURAKENCANA PETROLEUM BHD	141,400	4.67	660,338.00	

LAFARGE MALAYAN CEMENT BHD	15,000	7.90	118,500.00
PETRONAS CHEMICALS GROUP BHD	110,100	6.67	734,367.00
DIALOG GROUP BHD	71,800	3.34	239,812.00
GAMUDA BHD	67,200	4.28	287,616.00
IJM CORP BHD	44,200	5.72	252,824.00
MMC CORP BHD	33,400	2.88	96,192.00
SIME DARBY BERHAD	106,400	9.12	970,368.00
AIRASIA BHD	49,200	2.36	116,112.00
MALAYSIA AIRPORTS HLDGS BHD	21,800	8.75	190,750.00
MISC BHD	43,900	5.57	244,523.00
UMW HOLDINGS BHD	20,700	11.76	243,432.00
BERJAYA SPORTS TOTO BHD	26,600	4.05	107,730.00
GENTING BHD	80,500	10.20	821,100.00
GENTING MALAYSIA BHD	116,800	4.30	502,240.00
ASTRO MALAYSIA HOLDINGS BHD	61,300	2.97	182,061.00
PARKSON HOLDINGS BHD	23,700	2.88	68,256.00
BRITISH AMERICAN TOBACCO BHD	5,100	62.00	316,200.00
FELDA GLOBAL VENTURES	50,200	4.35	218,370.00
GENTING PLANTATIONS BHD	10,000	10.72	107,200.00
IOI CORPORATION BHD	113,900	4.14	471,546.00
KUALA LUMPUR KEPONG BHD	18,900	23.66	447,174.00
PPB GROUP BERHAD	18,700	15.24	284,988.00
IHH HEALTHCARE BHD	96,000	3.80	364,800.00
ALLIANCE FINANCIAL GROUP BHD	42,600	4.82	205,332.00
CIMB GROUP HOLDINGS BHD	179,800	7.11	1,278,378.00
HONG LEONG BANK BERHAD	22,200	14.26	316,572.00
HONG LEONG FINANCIAL GROUP	8,300	15.12	125,496.00
MALAYAN BANKING BHD	171,500	9.80	1,680,700.00
PUBLIC BANK BHD-FOREIGN MKT	41,700	19.20	800,640.00
RHB CAPITAL BHD	24,900	7.89	196,461.00
AMMB HOLDINGS BHD	65,200	7.31	476,612.00
IOI PROPERTIES GROUP SDN BHD	56,900	3.00	170,700.00
UEM SUNRISE BHD	59,900	2.17	129,983.00
AXIATA GROUP BERHAD	100,700	6.64	668,648.00
DIGI.COM BHD	137,600	4.74	652,224.00

マレーシア リングイト小計	MAXIS BHD	88,500	7.00	619,500.00	
	TELEKOM MALAYSIA BHD	42,200	5.51	232,522.00	
	PETRONAS GAS BHD	23,400	23.14	541,476.00	
	TENAGA NASIONAL BHD	111,000	11.46	1,272,060.00	
	YTL CORPORATION BERHAD	190,100	1.56	296,556.00	
	YTL POWER INTERNATIONAL BHD	86,600	1.88	162,808.00	
	銘柄数：44	2,850,100		18,337,243.00	
	組入時価比率：17.2%			(575,789,430)	17.3%
タイバーツ	BANPU PUBLIC CO LTD-NVDR	71,600	27.00	1,933,200.00	
	IRPC PCL-NVDR	659,500	3.24	2,136,780.00	
	PTT EXPLOR & PROD PCL-NVDR	91,500	159.00	14,548,500.00	
	PTT PCL-NVDR	56,400	288.00	16,243,200.00	
	THAI OIL PCL-NVDR	53,700	55.00	2,953,500.00	
	INDORAMA VENTURES PCL-NVDR	95,100	21.30	2,025,630.00	
	PTT GLOBAL CHEMICAL PCL-NVDR	109,900	74.25	8,160,075.00	
	SIAM CEMENT PCL-NVDR	8,700	404.00	3,514,800.00	
	SIAM CEMENT PUB CO-FOR REG	19,800	406.00	8,038,800.00	
	AIRPORTS OF THAILAND PC-NVDR	28,200	161.00	4,540,200.00	
	BTS GROUP HOLDINGS PCL-NVDR	382,000	8.35	3,189,700.00	
	MINOR INTERNATIONAL PCL-NVDR	102,700	21.50	2,208,050.00	
	BEC WORLD PUBLIC CO LTD-NVDR	64,500	47.50	3,063,750.00	
	HOME PRODUCT CENTER PCL-NVDR	189,517	9.05	1,715,128.85	
	CP ALL PCL-NVDR	289,900	39.50	11,451,050.00	
	CHAROEN POKPHAND FOODS-NVDR	178,500	29.25	5,221,125.00	
	BANGKOK DUSIT MED SERVI-NVDR	20,400	120.00	2,448,000.00	
	BANGKOK BANK PCL-FOREIGN REG	55,300	179.50	9,926,350.00	
	BANGKOK BANK PUBLIC CO-NVDR	39,000	179.00	6,981,000.00	
	KASIKORNBANK PCL-FOREIGN	77,200	172.00	13,278,400.00	
	KASIKORNBANK PCL-NVDR	45,700	168.00	7,677,600.00	
	KRUNG THAI BANK-NVDR	230,100	17.10	3,934,710.00	
	SIAM COMMERCIAL BANK P-NVDR	116,200	147.00	17,081,400.00	
	TMB BANK PUBLIC CORP-NVDR	861,600	2.14	1,843,824.00	
	CENTRAL PATTANA PCL-NVDR	88,700	39.75	3,525,825.00	
	ADVANCED INFO SERVICE-NVDR	68,500	214.00	14,659,000.00	

タイパーツ 小計	TRUE CORP PCL-NVDR	334,900	7.85	2,628,965.00	
	GLOW ENERGY PCL-NVDR	33,700	67.50	2,274,750.00	
	銘柄数：28	4,372,817		177,203,312.85	
	組入時価比率：16.7%			(559,962,468)	16.8%
フィリピンペンソ	ABOITIZ EQUITY VENTURES INC	230,790	52.75	12,174,172.50	
	ALLIANCE GLOBAL GROUP INC	245,300	26.40	6,475,920.00	
	DMCI HOLDINGS INC	95,130	57.95	5,512,783.50	
	JG SUMMIT HOLDINGS INC	243,500	39.00	9,496,500.00	
	SM INVESTMENTS CORP	17,113	709.00	12,133,117.00	
	INTL CONTAINER TERM SVCS INC	97,160	96.60	9,385,656.00	
	JOLLIBEE FOODS CORPORATION	50,080	167.00	8,363,360.00	
	UNIVERSAL ROBINA CORP	104,200	121.80	12,691,560.00	
	BANK OF PHILIPPINE ISLANDS	92,820	84.20	7,815,444.00	
	BDO UNIBANK INC	171,040	72.25	12,357,640.00	
	METROPOLITAN BANK & TRUST	32,773	76.40	2,503,857.20	
	AYALA CORPORATION	21,470	537.50	11,540,125.00	
	METRO PACIFIC INVESTMENTS CO	1,242,600	4.12	5,119,512.00	
	AYALA LAND INC	676,900	26.45	17,904,005.00	
	SM PRIME HOLDINGS INC	726,100	14.46	10,499,406.00	
	GLOBE TELECOM INC	3,955	1,772.00	7,008,260.00	
	PHILIPPINE LONG DISTANCE TELEPHONE CO	5,160	2,678.00	13,818,480.00	
	ABOITIZ POWER CORP	219,700	35.80	7,865,260.00	
	ENERGY DEVELOPMENT CORP	895,500	5.30	4,746,150.00	
	フィリピンペンソ 小計	銘柄数：19	5,171,291		177,411,208.20
	組入時価比率：12.2%			(409,819,890)	12.3%
インドネシア ルビア	ADARO ENERGY TBK PT	2,005,000	975.00	1,954,875,000.00	
	INDO TAMBANGRAYA MEGAH TBK PT	55,000	25,125.00	1,381,875,000.00	
	TAMBANG BATUBARA BUKIT ASAM	112,500	9,475.00	1,065,937,500.00	
	INDOCEMENT TUNGGAL PRAKARSA	205,000	21,900.00	4,489,500,000.00	
	SEMEN INDONESIA PERSERO TBK	413,000	15,200.00	6,277,600,000.00	
	UNITED TRACTORS TBK PT	234,000	19,300.00	4,516,200,000.00	
	JASA MARGA (PERSERO) TBK PT	284,000	5,000.00	1,420,000,000.00	
	ASTRA INTERNATIONAL TBK PT	2,819,500	6,925.00	19,525,037,500.00	

	GLOBAL MEDIACOM TBK PT	977,000	1,910.00	1,866,070,000.00	
	MEDIA NUSANTARA CITRA TBK PT	587,500	2,450.00	1,439,375,000.00	
	SURYA CITRA MEDIA PT TBK	611,000	2,600.00	1,588,600,000.00	
	MATAHARI DEPARTMENT STORE TB	203,000	11,800.00	2,395,400,000.00	
	ASTRA AGRO LESTARI TBK PT	55,000	20,875.00	1,148,125,000.00	
	CHAROEN POKPHAND INDONESIA PT	1,028,000	3,915.00	4,024,620,000.00	
	GUDANG GARAM TBK PT	67,000	45,000.00	3,015,000,000.00	
	INDOFOOD CBP SUKSES MAKMUR TBK PT	162,500	10,925.00	1,775,312,500.00	
	INDOFOOD SUKSES MAKMUR TBK PT	611,500	6,675.00	4,081,762,500.00	
	UNILEVER INDONESIA TBK PT	212,500	27,650.00	5,875,625,000.00	
	KALBE FARMA TBK PT	3,183,000	1,390.00	4,424,370,000.00	
	BANK CENTRAL ASIA TBK PT	1,717,000	9,900.00	16,998,300,000.00	
	BANK DANAMON INDONESIA TBK PT	467,500	4,125.00	1,928,437,500.00	
	BANK MANDIRI PERSERO TBK PT	1,300,000	8,750.00	11,375,000,000.00	
	BANK NEGARA INDONESIA PERSER	1,039,000	4,275.00	4,441,725,000.00	
	BANK RAKYAT INDONESIA PERSER	1,546,500	8,325.00	12,874,612,500.00	
	BUMI SERPONG DAMAI PT	975,000	1,455.00	1,418,625,000.00	
	LIPPO KARAWACI TBK PT	2,732,500	965.00	2,636,862,500.00	
	TELEKOMUNIKASI INDONESIA PER	6,318,500	2,225.00	14,058,662,500.00	
	TOWER BERSAMA INFRASTRUCTURE	234,000	6,000.00	1,404,000,000.00	
	XL AXIATA TBK PT	356,500	5,125.00	1,827,062,500.00	
	PERUSAHAAN GAS NEGARA PERSER	1,519,500	4,385.00	6,663,007,500.00	
インドネシア ルピア 小計	銘柄数：30  組入時価比率：38.0%	32,032,000		147,891,580,000.00  (1,271,867,588)  38.2%	
合 計		45,938,208		3,328,014,755  (3,328,014,755)	

(注1) 種類別通貨計の( )内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注2) 合計金額欄は、邦貨換算金額であります。

(注3) 組入時価比率は、左より純資産総額に対する評価額(邦貨換算金額)の割合、および、合計金額に対する評価額(邦貨換算金額)の割合であります。

## 2) 株式以外の有価証券(平成26年 1月20日現在)

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
----	----	----	------	-----	----



投資信託受益 証券	米ドル	HUTCHISON PORT HOLDINGS TR-UNIT	139,000	94,520.00	
	米ドル 合計	銘柄数：1	139,000	94,520.00	
		組入時価比率：0.3%			(9,833,860)
合計				9,833,860	
				(9,833,860)	

(注1) 種類別通貨計の( )内は、邦貨換算金額であります。

(注2) 合計金額欄は、邦貨換算金額であります。

(注3) 組入時価比率は、左より純資産総額に対する評価額(邦貨換算金額)の割合、および、合計金額に対する評価額(邦貨換算金額)の割合であります。

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額及び時価の状況表

当表に記載すべき内容は、「(デリバティブ取引等に関する注記)取引の時価等に関する事項」にて開示しておりますので、記載を省略しております。

## 2【ファンドの現況】

## 【純資産額計算書】

平成26年2月28日

資産総額	3,699,963,211 円
負債総額	55,400,792 円
純資産総額( - )	3,644,562,419 円
発行済数量	4,036,255,479 口
1口当たり純資産額( / )	0.9030 円
(1万口当たり純資産額)	(9,030 円)

&lt;参考&gt; マザーファンドの現況

アセアン株式マザーファンド

平成26年2月28日

資産総額	3,419,350,393 円
負債総額	0 円
純資産総額( - )	3,419,350,393 円
発行済数量	3,718,047,505 口
1口当たり純資産額( / )	0.9197 円
(1万口当たり純資産額)	(9,197 円)

#### 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

##### 1. 名義書換の手續等

委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、該当事項はありません。

##### 2. 受益者に対する特典

ありません。

##### 3. 譲渡制限の内容

譲渡制限はありません。

##### 4. 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

前項の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

委託会社は、上記の振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

##### 5. 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

##### 6. 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

##### 7. 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、解約請求の受付け、解約代金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

## 第二部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1【委託会社等の概況】

資本金の額等(平成26年2月末現在)

- 1) 資本金：3,000百万円
- 2) 発行可能株式総数：64,000株
- 3) 発行済株式総数：32,000株
- 4) 最近5年における資本金の額の増減：該当事項はありません。

#### 委託会社の機構

##### ・会社の意思決定機構

委託会社の経営にあたる取締役は、株主総会によって選任されます。その任期は選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までです。

取締役全員で構成される取締役会は、委託会社の経営の基本方針を決定するとともに、代表取締役を選任します。代表取締役は会社を代表し、取締役会の決議にしたがい業務を執行します。

また、常勤取締役および役付執行役員によって構成される経営会議が、取締役会から委任を受けた事項を決定します。

##### ・投資運用の意思決定機構

- 1) ファンドの運用に際しては、社内規程等において以下に述べる意思決定プロセスにかかわる組織体および権限、責任等を定め、これに基づき業務を執行します。

また、業務執行の適切性については、適宜、内部監査部門による評価等によりその実効性を確保しています。

- a. ファンダメンタルズ分析会議でエコノミスト、アナリストおよびファンドマネジャー等による投資環境分析を行い、これを踏まえて資産別(株式および債券)運用委員会を開催し、個別資産および各プロダクトの投資戦略を決定します。
- b. 投資政策委員会では、基本アセットアロケーション、ファンドの具体的な投資方針を決定します。

- 2) 資産運用部において、ファンドの具体的な投資方針に基づく運用を行います。

- 3) パフォーマンス評価・リスク管理委員会でパフォーマンス分析およびリスク分析、コンプライアンス委員会で法令遵守状況の審査を行い、これらを運用の意思決定プロセスにフィードバックします。

(注) 委員会および部・室の名称等は変更される場合があります。

#### 2【事業の内容及び営業の概況】

投資信託及び投資法人に関する法律に定める投資信託委託会社である当社は、証券投資信託の設定を行うとともに、金融商品取引法に定める金融商品取引業者としてその運用(投資運用業)ならびに受益権の募集または私募(第二種金融商品取引業)を行っています。また金融商品取引法に定める投資助言業務を行っています。

平成26年2月28日現在、当社の証券投資信託のうち、公募により勧誘が行われたものについての種類別の本数および純資産総額は以下のとおりです。なお、下記の他に私募により勧誘が行われた証券投資信託(純資産総額合計2,386億円)の運用を行っています。

種類	本数	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	9	75,099
合計	9	75,099

### 3【委託会社等の経理状況】

#### 1. 財務諸表および中間財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の規定により「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。

当社の中間財務諸表は「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)並びに同規則第38条及び第57条の規定により「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。

#### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第28期事業年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査を受けております。また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第29期中間会計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人の中間監査を受けております。

## 財務諸表

## (1)【貸借対照表】

(単位：千円)

期別		第27期 (平成24年3月31日)		第28期 (平成25年3月31日)	
科目	注記 番号	内訳	金額	内訳	金額
(資産の部)					
流動資産					
現金・預金			2,072,612		2,432,856
有価証券			199,975		501,337
前払費用	2		41,536		40,399
未収委託者報酬			147,060		166,766
未収運用受託報酬	2		439,269		490,371
未収収益			11,501		28,782
繰延税金資産			64,145		70,364
その他			11,182		10,187
流動資産計			2,987,284		3,741,068
固定資産					
有形固定資産					
建物	1	18,456		16,527	
器具備品	1	26,078	44,534	33,304	49,831
無形固定資産					
電話加入権		2,776		2,776	
ソフトウェア		4,849	7,625	9,640	12,416
投資その他の資産					
投資有価証券		1,107,646		604,363	
関係会社株式		38,574		38,291	
長期差入保証金	2	28,234		26,904	
繰延税金資産		34,513	1,208,967	30,540	700,100
固定資産計			1,261,128		762,347
資産合計			4,248,412		4,503,415

期別		第27期 （平成24年3月31日）		第28期 （平成25年3月31日）	
科目	注記 番号	内訳	金額	内訳	金額
（負債の部）					
流動負債					
預り金			32,156		74,750
未払金					
未払手数料	2	38,362		43,764	
その他未払金		14,580	52,942	44,375	88,140
未払費用	2		335,518		279,902
未払法人税等			716		24,171
未払消費税等			23,350		14,630
賞与引当金			104,118		117,645
流動負債計			548,803		599,241
負債合計			548,803		599,241
（純資産の部）					
株主資本					
資本金			3,000,000		3,000,000
資本剰余金					
資本準備金		524,000	524,000	524,000	524,000
利益剰余金					
利益準備金		216,800		216,800	
その他利益剰余金					
繰越利益剰余金		41,710	175,089	162,814	379,614
株主資本合計			3,699,089		3,903,614
評価・換算差額等					
その他有価証券評価差額金			519		560
評価・換算差額等合計			519		560
純資産合計			3,699,609		3,904,174
負債・純資産合計			4,248,412		4,503,415



## （２）【損益計算書】

（単位：千円）

期別		第27期 （自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日）		第28期 （自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日）	
科目	注記 番号	内訳	金額	内訳	金額
営業収益					
委託者報酬		1,612,285		1,675,983	
運用受託報酬		1,453,066		1,502,763	
その他営業収益		71,692	3,137,044	131,623	3,310,370
営業費用	1				
支払手数料			392,860		377,787
広告宣伝費			6,141		7,278
公告費			1,140		195
調査費					
調査費		396,480		386,361	
委託調査費		1,137,841		1,128,605	
図書費		1,804	1,536,126	1,346	1,516,313
営業雑経費					
通信費		2,994		3,016	
印刷費		6,222		6,700	
協会費		3,839		4,802	
諸会費		1,343		1,306	
その他営業雑経費		438	14,837	548	16,374
営業費用計			1,951,106		1,917,949
一般管理費	1				
給料					
役員報酬		75,464		88,080	
給料・手当		630,854		598,068	
賞与		6,775	699,543	40,894	727,042
交際費			3,908		4,324
寄付金			2,787		2,791
旅費交通費			20,270		16,939
租税公課			15,037		16,334
不動産賃借料			86,990		82,212
退職給付費用			37,782		46,312
福利厚生費			90,570		101,618
賞与引当金繰入			92,169		102,523
固定資産減価償却費			16,074		18,205
諸経費			86,018		89,628
一般管理費計			1,151,153		1,207,933
営業利益			34,783		184,487
営業外収益					
受取配当金	1		19,541		19,400
有価証券利息			16,579		14,541

受取利息			105		85
受取賃借料			13,531		10,231
雑収入	1		849		466
営業外収益計			50,607		44,725
営業外費用					
為替差損			720		-
雑損			98		121
営業外費用計			818		121
経常利益			84,572		229,091
特別損失					
固定資産除却損	2		831		1,554
関係会社株式評価損			1,282		283
その他特別損失			92		-
特別損失計			2,207		1,837
税引前当期純利益			82,365		227,253
法人税、住民税及び事業税		2,290		24,997	
法人税等調整額		10,916	13,206	2,268	22,728
当期純利益			69,158		204,525

## （３）【株主資本等変動計算書】

（単位：千円）

		第27期 (自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日)	第28期 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)	
株主資本				
資本金	当期首残高	3,000,000	3,000,000	
	当期変動額	-	-	
	当期末残高	3,000,000	3,000,000	
資本剰余金				
資本準備金	当期首残高	524,000	524,000	
	当期変動額	-	-	
	当期末残高	524,000	524,000	
資本剰余金合計	当期首残高	524,000	524,000	
	当期変動額	-	-	
	当期末残高	524,000	524,000	
利益剰余金				
利益準備金	当期首残高	216,800	216,800	
	当期変動額	-	-	
	当期末残高	216,800	216,800	
その他利益剰余金				
繰越利益剰余金	当期首残高	110,869	41,710	
	当期変動額	当期純利益	69,158	204,525
	当期末残高	41,710	162,814	
利益剰余金合計	当期首残高	105,930	175,089	
	当期変動額	69,158	204,525	
	当期末残高	175,089	379,614	
株主資本合計	当期首残高	3,629,930	3,699,089	
	当期変動額	69,158	204,525	
	当期末残高	3,699,089	3,903,614	
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金	当期首残高	489	519	
	当期変動額	株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	30	40
	当期末残高	519	560	
評価・換算差額等合計	当期首残高	489	519	
	当期変動額	30	40	
	当期末残高	519	560	
純資産合計	当期首残高	3,630,419	3,699,609	
	当期変動額	69,189	204,565	
	当期末残高	3,699,609	3,904,174	

## 重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1)満期保有目的の債券 償却原価法（定額法） (2)子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法 (3)その他有価証券 時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく時価法 （評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価のないもの 移動平均法による原価法
2. 固定資産の減価償却方法	(1)有形固定資産 定率法（ただし平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法）を採用しております。 なお、主な耐用年数は、建物6年～24年、器具備品3年～15年であります。 (2)無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。
3. 引当金の計上基準	賞与引当金 従業員に対する賞与の支払いに備えるため、将来の支給見込額のうち、当期の負担額を計上しております。
4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の処理方法 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

## 会計方針の変更

（減価償却方法の変更） 法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。 これによる損益に与える影響は軽微であります。
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 注記事項

（貸借対照表関係）

（単位：千円）

項目	第27期 （平成24年3月31日）	第28期 （平成25年3月31日）
1 有形固定資産の減価償却累計額		
建物	31,100	33,189
器具備品	88,435	90,896
2 関係会社に対する資産及び負債		
前払費用	4,579	4,579
未収運用受託報酬	3,399	4,416
長期差入保証金	27,755	27,755
未払手数料	16,475	79
未払費用	5,394	6,988

## （損益計算書関係）

（単位：千円）

項目	第27期 （自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日）		第28期 （自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日）	
	1 関係会社との取引に係るもの			
営業費用		228,237		146,619
一般管理費		219,543		210,971
受取配当金		19,380		19,380
雑収入		308		296
2 固定資産除却損の内訳				
器具備品		831		1,554

## （株主資本等変動計算書関係）

第27期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

## 1. 発行済株式に関する事項

（単位：株）

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
発行済株式				
普通株式	32,000	-	-	32,000
合計	32,000	-	-	32,000

## 2. 配当に関する事項

該当事項はありません。

第28期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

## 1. 発行済株式に関する事項

（単位：株）

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
発行済株式				
普通株式	32,000	-	-	32,000
合計	32,000	-	-	32,000

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

該当事項はありません。

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の 総額(円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月20日 定時株主総会	普通株式	100,000,000	利益剰余金	3,125円	平成25年3月31日	平成25年6月21日

## （金融商品関係）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、第二種金融商品取引業（委託者指図型投資信託の受益権の私募に係る業務）、投資助言・代理業（投資顧問契約に係る業務）及び投資運用業（投資一任契約に係る業務及び投資信託に係る業務）を営んでおります。

当社の金融商品に対する取組方針に関しましては、資産運用を行うに当たっては、会社経営の社会性・公共性の観点から問題を生ぜしめないように十分な配慮を行い、財務健全性の見地からリスク分散を図るとともに、経営体力に見合ったものとするよう定めております。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する金融商品には、関係会社株式、投資信託、及び満期保有目的の債券が含まれております。これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社の金融商品に係るリスク管理体制に関しましては、対象となる運用資産、取引、コンプライアンスチェック等を定めるとともに、実際に保有する金融商品については、定期的に発行体の財務状況、時価等を把握し、保有状況を見直すよう努めております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照）。

第27期（平成24年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	2,072,612	2,072,612	-
(2) 未収委託者報酬	147,060	147,060	-
(3) 未収運用受託報酬	439,269	439,269	-
(4) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	1,304,814	1,338,420	33,605
その他有価証券	2,807	2,807	-
(5) 未払費用	335,518	335,518	-

第28期（平成25年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	2,432,856	2,432,856	-
(2) 未収委託者報酬	166,766	166,766	-
(3) 未収運用受託報酬	490,371	490,371	-
(4) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	1,102,831	1,129,140	26,308
その他有価証券	2,870	2,870	-
(5) 未払費用	279,902	279,902	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収運用受託報酬、並びに(5) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、債券は取引金融機関から提示された価格によっており、投資信託は基準価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成24年3月31日	平成25年3月31日
非上場株式	38,574	38,291

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

第27期(平成24年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金・預金	2,072,612	-	-	-
未収委託者報酬	147,060	-	-	-
未収運用受託報酬	439,269	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 国債・地方債等	99,998	503,914	-	-
(2) 社債	99,977	-	-	-
(3) その他	-	397,563	203,361	-
合計	2,858,918	901,477	203,361	-

第28期(平成25年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金・預金	2,432,856	-	-	-
未収委託者報酬	166,766	-	-	-
未収運用受託報酬	490,371	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 国債・地方債等	401,321	100,410	-	-
(2) 社債	-	-	-	-
(3) その他	100,016	398,220	102,862	-
合計	3,591,333	498,630	102,862	-

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

第27期(平成24年3月31日)

(単位：千円)

	種類	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	603,912	610,390	6,477
	(2) 社債	99,977	100,170	192
	(3) その他	600,924	627,860	26,935
	小計	1,304,814	1,338,420	33,605
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-

	小計	-	-	-
合計		1,304,814	1,338,420	33,605

第28期(平成25年3月31日)

(単位:千円)

	種類	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を 超えるもの	(1) 国債・地方債等	501,731	504,360	2,628
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	601,100	624,780	23,679
	小計	1,102,831	1,129,140	26,308
時価が貸借対照表計上額を 超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		1,102,831	1,129,140	26,308

## 2. 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式25,791千円、関連会社株式12,500千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式26,074千円、関連会社株式12,500千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## 3. その他有価証券

第27期(平成24年3月31日)

(単位:千円)

	種類	取得原価	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの	投資信託	2,000	2,807	807
	小計	2,000	2,807	807
貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの	投資信託	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		2,000	2,807	807

第28期(平成25年3月31日)

(単位:千円)

	種類	取得原価	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの	投資信託	2,000	2,870	870
	小計	2,000	2,870	870
貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの	投資信託	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		2,000	2,870	870

## 4. 事業年度中に売却したその他有価証券

第27期(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

該当事項はありません。

第28期(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

該当事項はありません。



## (デリバティブ取引関係)

当社はデリバティブ取引を全く利用しておりませんので、該当事項はありません。

## (退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出年金法の施行に伴い、平成19年3月より確定拠出年金制度を採用しております。

## 2. 退職給付費用の内訳

(単位：千円)

	第27期 (自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日)	第28期 (自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)
確定拠出掛金等	37,782	46,312

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生原因別の内訳

(単位：千円)

	第27期 (平成24年3月31日)	第28期 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
(流動)		
未払事業税	2,294	4,003
未払事業所税	1,111	1,154
賞与引当金	36,189	54,791
未払役員報酬	303	490
未払法定福利費	4,717	8,095
未払寄付金	536	578
コンサルティング費用	190	190
インデックス使用料	142	142
未払確定拠出掛金	1,174	1,180
未返還投資顧問料	2,946	1,912
未払監査費用	3,061	3,374
未払調査費	2,508	2,508
繰越欠損金	8,970	-
小計	64,145	78,422
評価性引当金	-	8,058
繰延税金資産合計	64,145	70,364
(固定)		
関係会社株式評価損	4,192	4,293
インデックス使用料	190	47
敷金	1,570	1,764
繰越欠損金	113,949	41,803
小計	119,903	47,909
評価性引当金	85,102	17,059
繰延税金資産合計	34,800	30,850
繰延税金負債		

(固定)		
其他有価証券評価差額金	287	310
繰延税金負債合計	287	310
繰延税金資産の純額	98,658	100,905

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった項目別の内訳

(単位：%)

	第27期 (平成24年3月31日)	第28期 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.69	38.01
(調整)		
永久に損金に算入されない項目	6.31	2.50
永久に益金に算入されない項目	9.60	3.24
住民税均等割	2.78	1.01
評価性引当金の増減	34.06	28.39
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	9.92	-
その他	-	0.11
税効果会計適用後の法人税等の負担率	16.03	10.00

## (持分法損益等)

(単位：千円)

	第27期 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	第28期 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
関連会社等に対する投資の金額	38,000	38,000
持分法を適用した場合の投資の金額	129,310	137,353
持分法を適用した場合の投資利益の金額	20,925	27,423

## (資産除去債務関係)

資産除去債務のうち、貸借対照表に計上しているもの

## 1. 当該資産除去債務の概要

当社はオフィスの不動産貸借契約に基づき、オフィスの退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しております。

## 2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

当該資産除去債務については、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産貸借契約に関連する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積もり、そのうち当期の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

この見積もりにあたり、使用見込期間は当該オフィスビルの耐用年数である50年を採用しております。

## 3. 当該資産除去債務の総額の増減

(単位：千円)

	第27期 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	第28期 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
期首残高(注)	23,398	22,853

増減額（は減少）	545	545
期末残高	22,853	22,307

（セグメント情報等）

〔セグメント情報〕

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

〔関連情報〕

第27期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品・サービスの区分の外部顧客への売上高については、損益計算書に記載しております。

2. 地域ごとの情報

（1）売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が、貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

対象となる外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

なお、制度上顧客情報を知りえない、または顧客との守秘義務契約により開示できない売上については、判定対象から除いております。

第28期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品・サービスの区分の外部顧客への売上高については、損益計算書に記載しております。

2. 地域ごとの情報

（1）売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が、貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

対象となる外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

なお、制度上顧客情報を知りえない、または顧客との守秘義務契約により開示できない売上については、判定対象から除いております。

〔報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報〕

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとののれん償却額及び未償却残高に関する情報〕

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報〕

該当事項はありません。

（関連当事者情報）

1. 関連当事者との取引

親会社及び法人主要株主等

第27期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	朝日生命保険相互会社	千代田区	166,000	生命保険業	(被所有) 直接100%	投資顧問契約に基づく資産運用受託、及び証券投資信託受益証券の募集販売	運用受託報酬	37,437	未収運用受託報酬	3,399
							出向者人件費の支払、代 hands 手数料支払、賃借料・共益費支払他	361,886	未払金	16,475
									前払費用	4,579

第28期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	朝日生命保険相互会社	千代田区	166,000	生命保険業	(被所有) 直接100%	投資顧問契約に基づく資産運用受託、及び証券投資信託受益証券の募集販売	運用受託報酬	40,546	未収運用受託報酬	4,416
							出向者人件費の支払、代 hands 手数料支払、賃借料・共益費支払他	255,373	未払金	79
									前払費用	4,579

（注）1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

投資顧問契約については、一般の顧客と同様の取扱いをしております。

証券投資信託受益証券の募集販売の取引条件については、一般の販売会社と同様の取扱いをしております。

3. 営業費用のうち、賃借料・共益費については、朝日不動産管理株式会社が収納事務の代理を行っており、同社を経由した取引となっております。

2. 親会社に関する注記

親会社情報

朝日生命保険相互会社（相互会社であるため上場していません）

（1株当たり情報）

（単位：円）

項目	第27期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第28期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	115,612.78	122,005.46

1株当たり当期純利益	2,161.21	6,391.40
------------	----------	----------

なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たりの当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	第27期	第28期
	(自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日)	(自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日)
損益計算書上の当期純利益	69,158千円	204,525千円
普通株主に帰属しない金額	-	-
普通株式に係る当期純利益	69,158千円	204,525千円
普通株式の期中平均株式数	32,000株	32,000株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 中間財務諸表

## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

		第29期中間会計期間末 (平成25年9月30日)	
科目	注記 番号	内訳	金額
(資産の部)			
流動資産			
現金・預金			2,809,629
有価証券			300,653
未収委託者報酬			170,408
未収運用受託報酬			436,618
未収収益			26,515
繰延税金資産			72,350
その他			82,599
流動資産計			3,898,775
固定資産			
有形固定資産			
建物	1	15,613	
器具備品	1	39,152	54,765
無形固定資産			
電話加入権		2,776	
ソフトウェア		11,705	14,481
投資その他の資産			
投資有価証券		503,927	
関係会社株式		38,291	
長期差入保証金		26,697	
繰延税金資産		2,980	571,895
固定資産計			641,143
資産合計			4,539,919

		第29期中間会計期間末 (平成25年9月30日)	
科目	注記 番号	内訳	金額
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>			
預り金			89,890
未払金			
未払手数料		51,250	
その他未払金		79,468	130,718
未払費用			282,950
未払法人税等			9,371
賞与引当金			71,401
その他	2		22,109
流動負債計			606,441
<b>負債合計</b>			<b>606,441</b>
<b>(純資産の部)</b>			
<b>株主資本</b>			
資本金			3,000,000
資本剰余金			
資本準備金		524,000	524,000
利益剰余金			
利益準備金		226,000	
その他利益剰余金			
繰越利益剰余金		183,002	409,002
株主資本合計			3,933,002
<b>評価・換算差額等</b>			
その他有価証券評価差額金			475
評価・換算差額等合計			475
<b>純資産合計</b>			<b>3,933,477</b>
<b>負債・純資産合計</b>			<b>4,539,919</b>

## (2) 中間損益計算書

(単位:千円)

		第29期中間会計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
科目	注記 番号	金額
営業収益		
委託者報酬		1,057,459
運用受託報酬		714,609
その他営業収益		94,596
営業収益計		1,866,665
営業費用		1,127,551
一般管理費	1	609,246
営業利益		129,867
営業外収益	2	37,981
営業外費用		1,817
経常利益		166,031
特別損失		925
税引前中間純利益		165,106
法人税等		10,096
法人税等調整額		25,621
中間純利益		129,387



## ( 3 ) 中間株主資本等変動計算書

( 単位 : 千円 )

		第29期中間会計期間 ( 自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日 )	
株主資本			
資本金	当期首残高	3,000,000	
	当中間期変動額	-	
	当中間期末残高	3,000,000	
資本剰余金			
資本準備金	当期首残高	524,000	
	当中間期変動額	-	
	当中間期末残高	524,000	
資本剰余金合計	当期首残高	524,000	
	当中間期変動額	-	
	当中間期末残高	524,000	
利益剰余金			
利益準備金	当期首残高	216,800	
	当中間期変動額	剰余金の配当に伴う利益準備金の積立 9,200	
	当中間期末残高	226,000	
その他利益剰余金			
繰越利益剰余金	当期首残高	162,814	
	当中間期変動額	剰余金の配当	100,000
		中間純利益	129,387
		剰余金の配当に伴う利益準備金の積立	9,200
当中間期末残高	183,002		
利益剰余金合計	当期首残高	379,614	
	当中間期変動額	29,387	
	当中間期末残高	409,002	
株主資本合計	当期首残高	3,903,614	
	当中間期変動額	29,387	
	当中間期末残高	3,933,002	
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金	当期首残高	560	
	当中間期変動額	株主資本以外の項目の当中間期変動額 ( 純額 ) 84	
	当中間期末残高	475	
評価・換算差額等合計	当期首残高	560	
	当中間期変動額	84	
	当中間期末残高	475	
純資産合計	当期首残高	3,904,174	
	当中間期変動額	29,302	
	当中間期末残高	3,933,477	

## 重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）  (2) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法  (3) その他有価証券 時価のあるもの 中間決算日の市場価格等に基づく時価法 （評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価のないもの 移動平均法による原価法
2. 固定資産の減価償却方法	(1) 有形固定資産 定率法（ただし平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法）を採用しております。 なお、主な耐用年数は、建物6年～24年、器具備品3年～15年であります。  (2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。
3. 引当金の計上基準	賞与引当金 従業員に対する賞与の支払いに備えるため、将来の支給見込額のうち、当中間会計期間の負担額を計上しております。
4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、中間決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
5. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の処理方法 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

## 注記事項

(中間貸借対照表関係)

(単位：千円)

項目	第29期中間会計期間末 (平成25年9月30日)
1 有形固定資産の減価償却累計額	
建物	34,102
器具備品	82,239
2 消費税等の取扱い	仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ金額の重要性が乏しいため、流動負債の「その他」に含めて表示しております。

(中間損益計算書関係)

(単位：千円)

項目	第29期中間会計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1 減価償却実施額	
有形固定資産	7,761
無形固定資産	1,248
2 営業外収益の主要項目	

受取配当金	25,513
有価証券利息	6,786
受取利息	34

## （中間株主資本等変動計算書関係）

第29期中間会計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

## 1. 発行済株式に関する事項

（単位：株）

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
発行済株式				
普通株式	32,000	-	-	32,000
合計	32,000	-	-	32,000

## 2. 配当に関する事項

## 配当金支払額

決議	株主の種類	配当金の総額(円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月20日 定時株主総会	普通株式	100,000,000	3,125	平成25年3月31日	平成25年6月21日

## （金融商品関係）

第29期中間会計期間末（平成25年9月30日）

## 金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照）。

（単位：千円）

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	2,809,629	2,809,629	-
(2) 未収委託者報酬	170,408	170,408	-
(3) 未収運用受託報酬	436,618	436,618	-
(4) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	801,842	821,140	19,297
その他有価証券	2,738	2,738	-
(5) 未払費用	282,950	282,950	-

（注1）金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収運用受託報酬、並びに(5) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、債券は取引金融機関から提示された価格によっており、投資信託は基準価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

（注2）非上場株式（中間貸借対照表計上額38,291千円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

## (有価証券関係)

第29期中間会計期間末(平成25年9月30日)

## 1. 満期保有目的の債券

(単位:千円)

	種類	中間貸借対照表計上額	時価	差額
時価が中間貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	300,653	301,390	736
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	501,188	519,750	18,561
	小計	801,842	821,140	19,297
時価が中間貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		801,842	821,140	19,297

## 2. 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式(中間貸借対照表計上額 子会社株式25,791千円、関連会社株式12,500千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## 3. その他有価証券

(単位:千円)

	種類	取得原価	中間貸借対照表計上額	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	投資信託	2,000	2,738	738
	小計	2,000	2,738	738
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	投資信託	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		2,000	2,738	738

## (デリバティブ取引関係)

当社はデリバティブ取引を全く利用しておりませんので、該当事項はありません。

## （持分法損益等）

（単位：千円）

	第29期中間会計期間 （自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日）
関連会社等に対する投資の金額	38,000
持分法を適用した場合の投資の金額	130,956
持分法を適用した場合の投資利益の金額	19,102

## （資産除去債務関係）

第29期中間会計期間末（平成25年9月30日）

資産除去債務の変動の内容及び当中間会計期間における総額の増減は次のとおりであります。

当期首残高	22,307千円
増減額（は減少）	272千円
当中間会計期間末残高	<u>22,035千円</u>

（注）当社は不動産貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しております。当該資産除去債務については負債計上に代えて、不動産貸借契約に関連する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、当中間会計期間の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

## （セグメント情報等）

## 〔セグメント情報〕

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 〔関連情報〕

第29期中間会計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

製品・サービスの区分の外部顧客への売上高については、中間損益計算書に記載しております。

## 2. 地域ごとの情報

## （1）売上高

本邦の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## （2）有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が、中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

対象となる外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

なお、制度上顧客情報を知りえない、または顧客との守秘義務契約により開示できない売上については、判定対象から除いております。

## 〔報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報〕

該当事項はありません。

## 〔報告セグメントごとののれん償却額及び未償却残高に関する情報〕

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報〕

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

（単位：円）

項目	第29期中間会計期間 （自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日）
1株当たり純資産額	122,921.18
1株当たり中間純利益金額	4,043.37

なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（注）1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	第29期中間会計期間 （自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日）
中間純利益（千円）	129,387
普通株主に帰属しない金額（千円）	-
普通株式に係る中間純利益（千円）	129,387
普通株式の期中平均株式数（株）	32,000

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

#### 4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、金融商品取引法の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

#### 5【その他】

定款の変更等

- 1) 委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。
- 2) 委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあります。
- 3) 委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあります。

訴訟事件その他の重要事項

該当事項はありません。

**第2【その他の関係法人の概況】****1【名称、資本金の額及び事業の内容】**

&lt; 受託会社 &gt;

名称

みずほ信託銀行株式会社

資本金の額(平成25年9月末現在)

247,369百万円

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。

(参考)再信託受託会社の概要

名称:資産管理サービス信託銀行株式会社

資本金の額:50,000百万円(平成25年9月末現在)

事業の内容:銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。

&lt; 販売会社 &gt;

	名称	資本金の額 (単位:百万円)	事業の内容
1)	藍澤證券株式会社	8,000	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
2)	極東証券株式会社	5,251	同上
3)	高木証券株式会社	11,069	同上
4)	立花証券株式会社	6,695	同上
5)	日産センチュリー証券株式会社	1,500	同上
6)	廣田証券株式会社	600	同上
7)	水戸証券株式会社	12,272	同上
8)	八幡証券株式会社	2,000	同上
9)	株式会社トマト銀行	14,310	銀行法に基づき銀行業を営んでいます。

(注)資本金の額は、平成25年9月末現在を記載しています。

**2【関係業務の概要】**

&lt; 受託会社 &gt;

ファンドの受託者として信託財産の保管・管理、計算等を行います。

&lt; 販売会社 &gt;

ファンドの取扱販売会社として、募集の取扱いを行い、信託契約の一部解約に関する事務、受益権の買取りに関する事務、解約代金、収益分配金、償還金の支払いに関する事務等を行います。

**3【資本関係】**

受託会社および販売会社との間に資本関係はありません。



**第3【参考情報】**

当特定期間において、ファンドに係る書類は、以下のとおり提出されています。

平成25年7月26日	臨時報告書
平成25年10月17日	有価証券報告書、有価証券届出書の訂正届出書
平成25年10月28日	臨時報告書

# 独立監査人の監査報告書

平成25年6月20日

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員

業務執行社員

公認会計士

杉山 正治

指定有限責任社員

業務執行社員

公認会計士

窪寺 信

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている朝日ライフ アセットマネジメント株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第28期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、朝日ライフ アセットマネジメント株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成26年3月25日

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人  
指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 杉山 正治  
指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 窪寺 信

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている朝日ライフ・MSCI・グローイング・アセアン株式ファンドの平成25年7月19日から平成26年1月20日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、朝日ライフ・MSCI・グローイング・アセアン株式ファンドの平成26年1月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の中間監査報告書

平成25年12月6日

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員	公認会計士	杉山 正治
業務執行社員		
指定有限責任社員	公認会計士	窪寺 信
業務執行社員		

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている朝日ライフ アセットマネジメント株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第29期事業年度の中間会計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

### 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、朝日ライフ アセットマネジメント株式会社の平成25年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。